大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

5

２００２年3月

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府文化財調査事務所は発掘調査と遺物整理作業の一元化を目的として1997年４月にオープンし、今年度で５年目を迎えることとなりました。この間、調査事務所を拠点として府内各地域において発掘調査を実施するとともに、調査事務所の機能を活かした効率的な整理作業を、現地調査と連携しながら実施してまいりました。

その成果は概要報告・大阪府埋蔵文化財報告として発刊するとともに、資料の一部は泉北考古資料館における速報展や、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館などで府民の皆様に広く公表してきました。また、事務所発足以降は、前年度の主たる発掘調査や事業の成果を「文化財調査事務所年報」としてまとめてきました。

この間、文化財保護行政を取り巻く環境は年々変化しつつあります。平成11年には文化財保護法が改正され、地方分権の推進に伴う国からの大幅な権限委譲が行われました。さらに文化庁では、現在開発と埋蔵文化財調査等のあり方についての検討がなされつつあります。

一方、大阪府では現在未曾有の財政危機に陥り、水と緑の健康都市、国際文化公園都市計画など、大型プロジェクトや公共事業の見直しが行われつつあります。これに伴い、発掘調査についても平成12年度は、前年度に比べ若干調査面積は増加しましたが、ここ数年では平成10年をピークとして発掘調査件数は減少する傾向を見せています。

また、平成12年には「旧石器捏造事件」が発覚し、真摯に埋蔵文化財保護行政に携わっているものにも疑いの目がかけられることも多くなりました。

このように、現在の文化財保護行政を取り巻く状況は刻々と変化しており、予断を許しませんが、本府教育委員会といたしましては、今後とも文化財の保護及び普及啓発にまい進していく所存でありますので、なお一層のご協力とご理解をお願いいたします。

平成14年３月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　小　林　　栄

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第５冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成12年度発掘調査及び普及啓発活動等を記載している。

3．本書の３・４表には平成12年度に本府教育委員会が実施した全ての埋蔵文化財調査を記載している。

4．埋蔵文化財調査のなかの主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。

なお、概要報告表題の調査番号は第３・４表の調査番号と一致する。

遺跡名（平成12年度調査番号）

（１）所在地

（２）調査面積

（３）現地調査実施期間

（４）調査の原因となった事業

（５）調査担当者

5．概要報告は各調査担当者が、「平成12年度における埋蔵文化財調査の概況」は、調査管理グループ課長補佐堀江門也が執筆した。

6．巻末の普及啓発活動、貸出・掲載許可依頼等の資料一覧は、調査管理グループで作成した。

7．本書の編集は、調査管理グループが行った。

目　　次

はじめに
例言
目次
挿図目次・表目次
平成12年度における埋蔵文化財調査の概況 …… 1
発掘調査概要報告
　木の本遺跡（００００３） …… 5
　野々上西遺跡（００００４） …… 6
　寛弘寺１号墳（００００５） …… 7
　加納・平石古墳群（００００８） …… 8
　七ノ坪遺跡（００００１０） …… 9
　田能遺跡群（００００１１・００００５０） …… 10
　梶遺跡（００００１３） …… 11
　百済寺遺跡（００００１４） …… 12
　陶器南遺跡（００００１７） …… 13
　吉井遺跡（００００１８） …… 14
　総持寺遺跡（００００２６） …… 15
　西大井遺跡（００００２７・００００４４） …… 16
　金岡西遺跡（００００２８） …… 17
　磯之上十ノ坪遺跡（００００２９） …… 18
　宮野遺跡（００００３６） …… 19
　紅茸山南遺跡（００００４５） …… 20
　讃良郡条里遺跡（００００４６） …… 21
　禅城寺・宇保遺跡（００００４７） …… 22
　唐櫃山古墳（００００４８） …… 23
　摩湯北遺跡（００００６０） …… 24
　馬場笹カ遺跡（００００６２） …… 25
普及啓発・広報事業 …… 26
資料の貸出・掲載・閲覧 …… 29
文化財保護課・文化財調査事務所組織図 …… 32

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 4
第２図　流路183（西から） …… 5
第３図　土坑339遺物出土状況 …… 5
第４図　遺構全体図…… 6
第５図　建物70（南から）…… 6
第６図　溝16（西から）…… 6
第７図　墳丘盛土基底面上の炭灰混じり
　　ブロック平面図 …… 7
第８図　墳丘東面断面図 …… 7
第９図　加納古墳群全景 …… 8
第10図　加納２号墳石室 …… 8
第11図　遺構配置図 …… 9
第12図　古墳時代前期水路想定図 …… 9
第13図　調査区位置図 …… 10
第14図　田能南遺跡落ち込み
　　遺物出土状況 …… 10
第15図　田能南遺跡建物１・２ …… 10
第16図　古墳と中世遺構 …… 11
第17図　中世掘立柱建物跡 …… 11
第18図　噴砂の砂脈断面 …… 11
第19図　調査地位置図（Ｓ＝１／20,000）… 12
第20図　須恵器高杯 …… 12
第21図　周溝内出土状況（南から）…… 12
第22図　これまでの調査位置図と
　　遺構全体図 …… 13
第23図　調査地位置図 …… 14
第24図　１区掘立柱建物跡 …… 14
第25図　２区第１面掘立柱建物跡 …… 14
第26図　２区第２面掘立柱建物跡 …… 14
第27図　４区大溝 …… 14
第28図　南部調査区の遺構（上）と北部
　　調査区の遺構（竪穴住居、
　　掘立柱建物跡）（右）…… 15
第29図　調査地遠景…… 16
第30図　調査区（その１）第５遺構面 …… 16
第31図　調査区（その２）第５遺構面 …… 16
第32図　２次調査Ｂ区全景
　　及び遺構変遷図 …… 17
第33図　調査区南部建物群 …… 18
第34図　第２面遺構平面図 …… 19
第35図　古墳時代竪穴住居跡 …… 20
第36図　堤体と調査区 …… 20
第37図　土坑１遺出土状況（上方が東）…… 21
第38図　Ｅ地区西壁の基本層序模式図 …… 21
第39図　Ｄ区全景（南から） …… 22
第40図　１段目テラスと
　　２段目墳丘・葺石 …… 23
第41図　周濠 …… 23
第42図　調査地位置図 …… 24
第43図　調査地位置図 …… 25

表　目　次

第１表　平成12年度発掘調査件数・面積 …… 1
第２表　事業別・地域別調査面積 …… 1
第３表　平成12年度調査箇所一覧（１）…… 2
第４表　平成12年度調査箇所一覧（２）…… 3

平成12年度における埋蔵文化財調査の概況

堀　江　門　也

平成12年度に実施した埋蔵文化財調査は、発掘、試掘、確認、立会あわせて70件、52,185㎡にのぼり、昨年度と比べ件数こそ２件少なかったものの調査面積は約8,000㎡増となった。

原因者別に見れば、ここ数年来の傾向である府営住宅建替に伴う調査がトップを占め、農林事業が次に続く状況は変わっていないが、阪神淡路大震災を教訓として計画された中部広域防災施設建設に伴う調査等が特筆される。

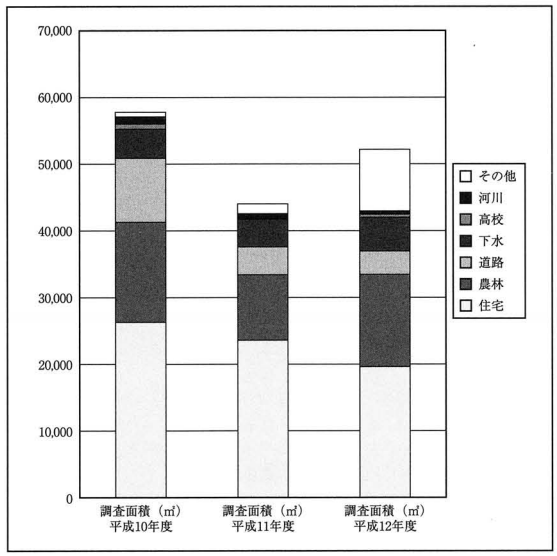
そして平成12年度に実施した調査の中から、今後の調査が期待される讃良郡条里遺跡他20件の注目すべき調査の概要を以下に報告する。

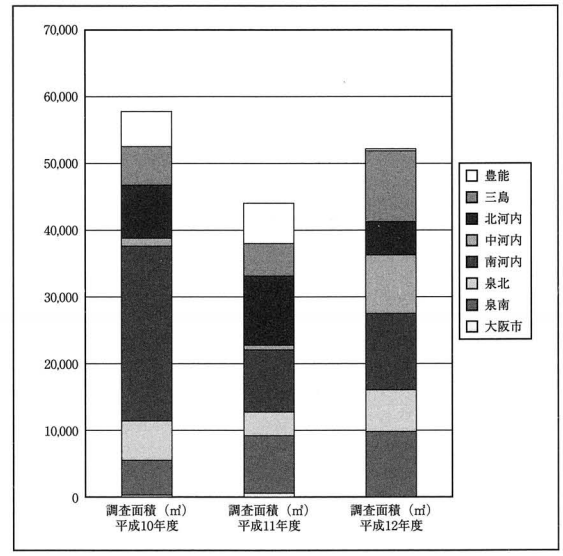
		豊　能	三　島	北河内	中河内	南河内	泉　北	泉　南	大阪市	合　計
住　宅	件　数	0	3	5	0	2	1	3	0	14
	面積(㎡)	0	5,897	4,311	0	1,449	4	7,962	0	19,623
農　林	件　数	0	4	1	0	6	1	6	0	18
	面積(㎡)	0	4,724	30	0	4,507	3,263	1,293	0	13,817
道　路	件　数	1	1	0	3	4	5	0	0	14
	面積(㎡)	310	8	0	39	250	2,897	0	0	3,504
下　水	件　数	0	0	1	4	3	0	1	0	9
	面積(㎡)	0	0	25	750	4,236	0	55	0	5,066
高　校	件　数	0	0	0	1	0	1	1	0	3
	面積(㎡)	0	0	0	49	0	76	300	0	425
河　川	件　数	0	0	0	1	2	0	0	0	3
	面積(㎡)	0	0	0	214	316	0	0	0	530
その他	件　数	0	0	3	3	2	0	1	0	9
	面積(㎡)	0	0	612	7,716	692	0	200	0	9,220
合　計	件　数	1	8	10	12	19	8	12	0	70
	面積(㎡)	310	10,629	4,978	8,768	11,450	6,240	9,810	0	52,185

第１表　平成12年度発掘調査件数・面積

	平成10年度		平成11年度		平成12年度	
	調査面積(㎡)	比率(%)	調査面積(㎡)	比率(%)	調査面積(㎡)	比率(%)
住　宅	26,271	45.5	23,590	53.6	19,623	37.6
農　林	15,026	26	9,832	22.3	13,817	26.5
道　路	9,590.4	16.6	4,159	9.4	3,504	6.7
下　水	4,355.9	7.5	4,149	9.4	5,066	9.7
高　校	750	1.3	8	0.1	425	0.8
河　川	1,125	1.9	841	1.9	530	1.1
その他	665	1.2	1,456	3.3	9,220	17.6
合　計	57,783.3		44,035		52,185	

	平成10年度		平成11年度		平成12年度	
	調査面積(㎡)	比率(%)	調査面積(㎡)	比率(%)	調査面積(㎡)	比率(%)
豊　能	5,249	9.1	6,026	13.7	310	0.5
三　島	5,779	10	4,883	11.1	10,629	20.4
北河内	7,948	13.8	10,396	23.6	4,978	9.5
中河内	1,204.8	2.1	665	1.5	8,768	16.8
南河内	26,177.9	45.3	9,324	21.2	11,450	22
泉　北	5,922.5	10.2	3,531	8	6,240	11.9
泉　南	5,206.1	9	8,638	19.6	9,810	18.8
大阪市	296	0.5	572	1.3	0	0
合　計	57,783.3		44,035		52,185	





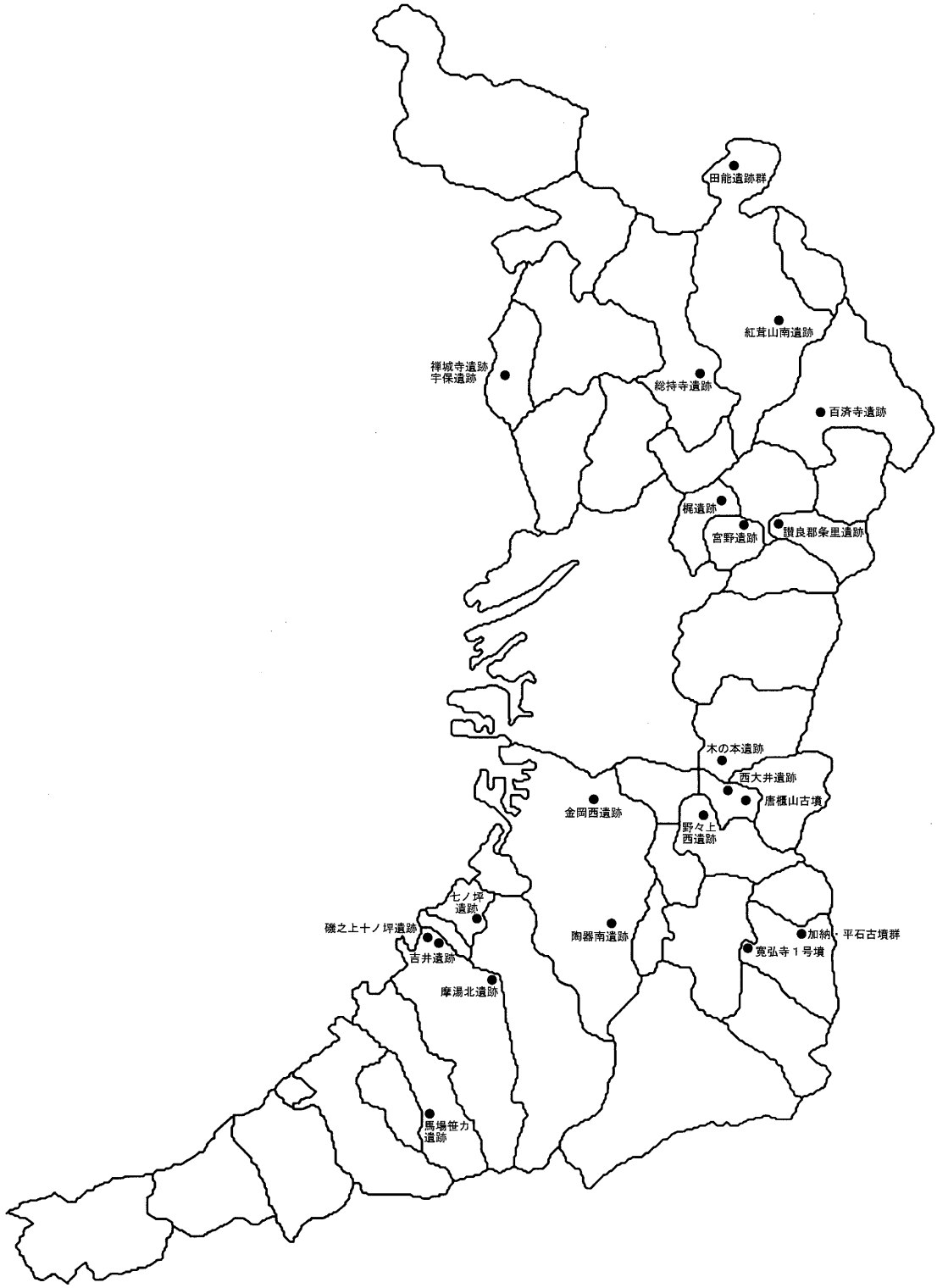
第２表　事業別・地域別調査面積

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	対象面積(㎡)	実施面積(㎡)	担当者	事業課	事業名
00001	木の本遺跡	八尾市南木の本３丁目	発掘	H12.3.2	H12.5.12	214	214	藤田	河川砂防課	一級河川平野川改修
00002	大和川今池遺跡	松原市天美西７丁目	試掘	H12.4.3	H12.4.4	3,600	1,500	竹原	下水道課	今池処理場砂ろ過施設建設
00003	木の本遺跡	八尾市空港１丁目	発掘	H12.4.3	H13.3.30	54,000	7,700	岩崎 横田	防災室	中部広域防災拠点施設建設
00004	野々上西遺跡	羽曳野市野々上５丁目	発掘	H12.5.27	H13.3.30	1,389	1,389	井西	住宅整備課	府営羽曳野野々上住宅建替
00005	寛弘寺１号墳	河南町寛弘寺	発掘	H12.6.6	H12.7.7	237	237	枡本	農政室	府営農地開発事業「河南西部地区」
00006	金岡西遺跡	堺市金岡町地内	発掘	H12.4.3	H12.5.15	1,800	1,561	今村	交通政策室	（都）南花田鳳西町線建設
00007	九々丸塚古墳	枚方市枚方元町	立会	H12.4.14	H12.4.14	400	400	佐久間	河川砂防課	崖崩れ防止工事
00008	加納・平石古墳群	河南町加納地内	発掘	H12.9.1	H13.3.23	70,000	3,944	今村	農政室	中山間地域総合整備事業南河内こごせ地区
00009	田能南遺跡	高槻市大字田能	発掘	H12.4.3	H12.4.28	44,000	300	奥	農の振興整備室	府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」
00010	七ノ坪遺跡	泉大津市北豊中町 １－１－１	発掘	H12.6.12	H12.6.29	80	76	亀島	施設課	府立泉大津高校下水道切替え工事
00011	田能北遺跡	高槻市大字田能	発掘	H12.6.7	H12.8.31	44,000	613	奥	農の振興整備室	府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」
00012	植附遺跡	東大阪市	試掘	H12.6.28	H12.6.28	100	50	泉本	下水道課	枚方河内中央幹線（第7工区）下水管渠築造工事
00013	梶遺跡	守口市佐太東町	発掘	H12.7.24	H13.1.31	9,800	2,954	辻本	住宅整備課	府営庭窪金田住宅建替え
00014	百済寺遺跡	枚方市宮之阪	試掘	H12.7.17	H12.7.24	3,000	110	泉本	病院事務局 経営管理課	府立中宮病院病棟新築
00015	佐備川Ｂ地点遺跡	富田林市龍泉	試掘	H12.7.27	H12.7.27	350	2	佐久間	道路課	府道甘南備川向線歩道拡幅
00016	岡町北遺跡	豊中市岡町	立会	H12.7.28	H12.7.28	240	8	辻本	道路課	電線共同溝整備
00017	陶器南遺跡	堺市陶器北	発掘	H12.7.31	H12.12.28	3,263	3,263	西川	農政室	府営ほ場整備事業「陶器北地区」
00018	吉井遺跡	岸和田市吉井町３丁目地内	発掘	H12.8.1	H13.3.30	4,648	4,648	竹原	住宅整備課	府営吉井住宅建替え
00019	郡戸遺跡	羽曳野市郡戸	試掘	H12.12.4	H12.12.7	2,800	52	佐久間	農政室	府営ため池等整備事業「上青井池地区」
00020	陶邑窯跡群	和泉市納花町	試掘	H12.12.8	H12.12.15	500	38	佐久間	農政室	府営ため池等整備事業「納花長池地区」
00021	範囲外	堺市高松	試掘	H12.6.12	H12.6.12	2,000	4	藤澤	住宅整備課	府営高松住宅建替え
00022	堺環濠都市遺跡	堺市車之町東３丁目	試掘	H12.6.16	H12.6.16	400	6	藤澤	道路課	府道堺大和高田線ＣＡＢ工事
00023	龍光院地区	岸和田市上白原町	立会	H12.7.24	H12.7.24	200	200	藤澤	ダム砂防課	龍光院地区急傾斜地崩壊対策
00024	堺環濠都市遺跡	堺市新町	試掘	H12.8.9	H12.8.9	600	10	藤澤	道路課	府道大阪和泉泉南線ＣＡＢ工事
00025	範囲外	泉南市樽井	試掘	H12.8.25	H12.8.25	2,000	6	藤澤	住宅整備課	府営前畑住宅住戸改善
00026	総持寺遺跡	茨木市三島丘２丁目	発掘	H12.8.3	H13.3.30	60,389	5,400	阿部	住宅整備課	府営三島丘住宅建替え
00027	西大井遺跡（その１）	藤井寺市西大井１丁目地内	発掘	H12.9.5	H13.1.31	1,268	1,268	大楽	下水道課	大井処理場水処理施設建設
00028	金岡西遺跡	堺市金岡町地内	発掘	H12.9.20	H13.2.8	1,314	1,314	亀島	交通政策課	（都）南花田鳳西町線建設
00029	磯之上十ノ坪遺跡	岸和田市磯上町	発掘	H12.10.1	H13.3.30	7,800	3,308	枡本	住宅整備室	府営磯ノ上住宅建替え
00030	植附遺跡	東大阪市中石切町	立会	H12.10.3	H12.11.30	100	50	山上	下水道課	枚方河内中央幹線（第7工区）下水管渠築造工事
00031	新堂廃寺	富田林市緑ヶ丘	発掘	H12.10.2	H12.10.31	49,700	60	井西	住宅整備課	府営富田林緑ヶ丘住宅集会所新築
00032	上田町遺跡	松原市上田町３丁目	立会	H12.10.5 H12.12.12	H12.10.5 H12.12.12	492	492	佐久間 広瀬	富田林土木総務課	富田林土木松原分室倉庫建設及び看板設置
00033	範囲外	高槻市深沢町	試掘	H12.9.18	H12.9.22	87,400	61	宮崎	住宅整備課	府営深沢住宅建替え
00034	範囲外	交野市梅が枝	試掘	H12.9.25	H12.9.29	不　明	18	宮崎	住宅整備課	府営梅が枝住宅建替え
00035	範囲外	茨木市西福井	試掘	H12.10.2	H12.10.10	41,000	436	宮崎	住宅整備課	府営福井住宅建替え
00036	宮野遺跡	門真市上島町	発掘	H12.10.10	H13.1.12	17,100	1,307	藤田	住宅整備課	府営四宮鉄筋住宅建替え
00037	平尾遺跡	美原町平尾	立会	H12.10.25	H12.10.25	450	4	佐久間	道路課	府道堺富田林線
00038	招提中町遺跡		遺物整理	H12.4.3	H13.3.30			山上	住宅整備課	

第３表　平成12年度調査箇所一覧（１）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	対象面積（㎡）	実施面積（㎡）	担当者	事業課	事業名
00039	余部遺跡（その２）		遺物整理	H12.4.3	H13.3.30			小浜	住宅整備課	
00040	新堂廃寺		遺物整理	H12.4.3	H13.3.30			井西	住宅整備課	
00041	陶邑窯跡群（谷山池12号窯跡）		遺物整理	H12.4.3	H13.3.30			今村	農政室	
00042	池上曽根遺跡		遺物整理	H12.4.3	H13.3.30			西川	交通政策室	
00043	上田町遺跡	松原市上田町４丁目	立会	H12.11.24	H12.11.24	2,122	200	佐久間	富田林土木松原分室	富田林土木松原分室解体
00044	西大井遺跡（その２）	藤井寺市西大井１丁目地内	発掘	H12.12.13	H13.3.30	1,468	1,468	大楽	下水道課	大井処理場水処理施設建設
00045	紅茸山南遺跡	高槻市安満北の町	試掘発掘	H12.12.15	H13.3.30	1,600	1,600	泉本山上	農政室	府営ため池等整備事業安満新池地区
00046	讃良群条里遺跡	四條畷市砂・都屋	試掘	H12.11.8	H12.12.19	38,550	25	宮崎	下水道課	なわて水環境保全センター
00047	禅城寺遺跡・宇保遺跡	池田市宇保	発掘	H13.1.9	H13.3.30	700	310	泉本	交通政策室	（都）神田池田線拡幅
00048	唐櫃山古墳	藤井寺市国府２丁目	発掘	H12.12.13	H13.3.2	240	240	佐久間	道路課	府道堺大和高田線歩道拡幅
00049	範囲外	羽曳野市樫山	試掘	H12.12.5	H12.12.5	300	8	広瀬	農政室	ため池等整備事業樫山新池地区
00050	田能南遺跡	高槻市大字田能	発掘	H12.9.26	H13.3.23	44,000	2,211	奥	農の振興整備室	府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」
00051	鵜立遺跡	東大阪市高殿町	試掘	H12.11.20	H12.11.21	650	49	小林	施設課	府立食品産業高校建替え
00052	小阪合遺跡	八尾市南小阪合町	試掘	H12.12.4	H12.12.4	120	50	小林	下水道課	柏原八尾幹線（第10区）下水管渠築造工事
00053	跡部遺跡	八尾市跡部北の町	試掘	H13.1.11	H13.1.11	5,000	34	小林	道路課	府道久宝寺太田線
00054	新池遺跡	交野市私部	立会	H12.12.7	H12.12.7	30	30	小林	農政室	ため池改修
00055	日下遺跡	東大阪市日下	立会	H12.12.4	H13.1.24	300	600	小林	下水道課	枚岡河内北幹線（第11工区）下水管渠築造工事
00056	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	立会	H12.8.17	H12.8.24	167	6	岩崎	中部公園事務所	久宝寺緑地北地区下水道整備工事
00057	水越遺跡	八尾市服部川１丁目	立会	H13.1.10	H13.1.10	120	4	岩崎	道路課	一般国道（旧）170号線歩道設置
00058	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町１丁目	試掘	H13.2.5	H13.2.9	11,200	32	宮崎	住宅整備課	府営枚方住宅建替え
00059	六尾遺跡	泉南市六尾	試掘	H12.11.13	H12.11.30	200,000	117	藤澤	緑資源公団	農用地総合整備事業
00060	摩湯北遺跡	岸和田市摩湯町	発掘	H13.1.15	H13.3.23	754	754	藤澤	緑資源公団	農用地総合整備事業
00061	吉井遺跡	岸和田市吉井町３丁目地内	立会	H13.2.20	H13.3.2	55	55	竹原	忠岡町下水道課	下水道管設置
00062	馬場笹カ遺跡	貝塚市馬場	発掘	H13.2.13	H13.3.23	330	330	藤澤	緑資源公団	農用地総合整備事業
00063	堺環濠都市遺跡	堺市南瓦町～一条通	立会	H13.2.15	H13.2.15	2,000	6	藤澤	道路課	府道大阪和泉泉南線ＣＡＢ工事
00064	駒ヶ谷遺跡	羽曳野市駒ヶ谷	立会	H13.2.13	H13.3.16	300	300	西川	河川課	飛鳥川護岸改修
00065	範囲外（一須賀古墳群隣接）	太子町仏願寺	立会	H13.3.14	H13.3.14	1,000	16	西川	河川課	太井川護岸改修
00066	岸和田城跡	岸和田市岸城町	発掘	H13.3.18	H13.3.30	300	300	西川	施設課	府立岸和田高校建替え
00067	太田遺跡	八尾市太田３丁目	立会	H12.10.12	H12.10.12	700	2	横田	道路課	（旧）中央環状線歩道設置
00068	神宮寺遺跡	八尾市神宮寺５丁目	立会	H12.10.17	H12.10.17	167	3	横田	道路課	170号線歩道設置
00069	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	立会	H12.12.5	H13.1.24		10	横田	中部公園事務所	久宝寺緑地埋管
00070	桐山遺跡	千早赤阪村桐山地内	試掘	H13.1.8	H13.1.31	1,800	14	今村	農政室	中山間地域総合整備事業南河内こごせ地区
00071	高向遺跡	河内長野市高向	発掘	H12.12.8	H13.3.30	252	252	佐久間	農政室	丹保池改修
00072	枚方上之町遺跡	枚方市上之町	立会	H12.4.14	H12.4.14			横田	住宅整備課	西枚方住宅建替え
00073	井関・小口谷遺跡	阪南市石田	立会	H12.9.18	H12.11.15	400	0	藤澤	農政室	蓮池水路改修
00074	範囲外	枚方市山田池公園	試掘	H12.11.26	H12.11.26	12	12	宮崎	東部公園事務所	休憩所新築
00075	男里遺跡	泉南市男里	試掘	H13.2.5	H13.3.14	2,030	54	藤澤	農政室	双子池改修

第４表　平成12年度調査箇所一覧（２）


田能遺跡群
紅茸山南遺跡
禅城寺遺跡
宇保遺跡
総持寺遺跡
百済寺遺跡
梶遺跡
宮野遺跡
讃良郡条里遺跡
木の本遺跡
西大井遺跡
唐櫃山古墳
金岡西遺跡
野々上
西遺跡
七ノ坪
遺跡
磯之上十ノ坪遺跡
吉井遺跡
陶器南遺跡
加納・平石古墳群
寛弘寺１号墳
摩湯北遺跡
馬場笹カ
遺跡

第１図　遺跡位置図

木の本遺跡（００００３）

（１）八尾市空港１丁目　（２）7,700㎡
（３）平成12年３月１日～平成13年３月30日
（４）中部広域防災拠点施設建設　（５）岩崎　二郎　横田　明

木の本遺跡は八尾市西南部に所在する。弥生時代、古墳時代、平安時代、中世に至る複合遺跡で、実質的には時代も生活領域も異なる複数の遺跡を包括している。今回の調査区は遺跡範囲の東側であり、弥生時代前期の集落である田井中遺跡に隣接している。現地調査は、地表面から１m下までを機械で掘削し、それ以下の土層は１枚ずつ人力で掘削する方法を取った。結果、弥生時代以降、近世におよぶ４枚の遺構面を検出できた。

第１面

地表下約1.5mで検出された。遺構面は砂で覆われており、南北方向の溝と畦畔が発見された。溝と溝の間隔は約110mでほぼ１町に相当する。17世紀以降の水田面である。

第２面

地表下約1.7mで検出された。砂で覆われた下から、溝、畦畔が検出された。足跡は調査区全面から検出されているが、遺構は西側に集中している。畦畔や溝は東西南北に直行する状態で検出されている。時期的には15世紀を前後する。

第３面

地表下約２mで検出された。東側は南北方向の溝が主体であるが、西側は畦畔と溝が縦横に直行しており、その間隔も東西方向で約20数mである。西側は水田区画の痕跡で、東側は耕作溝であたっと推測される。時期的には13世紀を前後するもので、この地点の条里制の原型と思われる

第４面

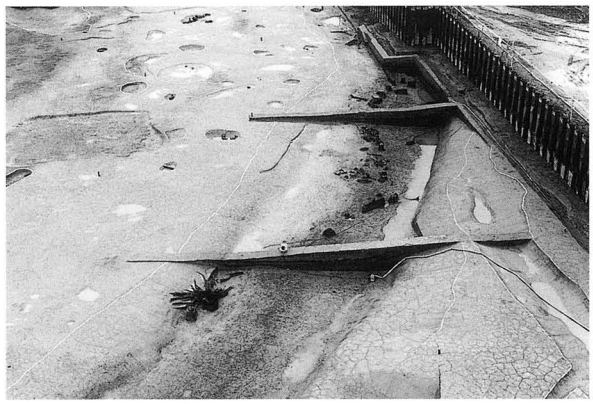
地表下約2.2mで検出された。自然流路や溝、土坑が主体で、遺構、遺物は弥生時代前期を主体にしながら、古墳時代中期のものもある。調査区を貫く流路183からは、弥生時代前期の壺、甕などの土器、木製の農具や椀などが多量に出土している。土器はこの流路だけでコンテナ百数十箱が出土している。突帯文土器は若干含まれる程度であるが、畿内Ｉ様式の古い時期に含まれるものが多い。この中には朱彩のあるもの、低部に穿孔したものなども含まれる。木器には鍬や鋤など農工具の未製品を主体にしながら、椀や高坏の未製品も出土している。

また、不定形の落ち込みが調査区全域で検出されている。その中には木棺の小口板らしきもの、土器棺らしきもの、ミニチュアの壺を伴うものもあり、基本的に墓域だったものと推測される。

まとめ

今回の調査区の北側は、弥生時代前期を主体とする集落跡（田井中遺跡）に隣接している。流路183から出土した多量の遺物は、この集落から廃棄されたものと考えられる。土器以外にもまとまって出土している木器の中には、さまざまな種類の農具や器物が含まれており、土器だけではなかった当時の物質文化をしのばせる。

甕棺や木棺などはこの集落に関係する人々の墓であったと思われる。これらのことから、居住域の回りには墓域がひろがっていたこと、生活用具を集落の外側に大量に投棄していることが確認された。また弥生時代以降の遺構としては、第１～３面で検出された水田があり、全て南北方向に整った区画を備えている。今回の調査区で水田区画の一番古いものは、13世紀頃のものである。この頃には地域の水田開発がかなり進んでいたのであろう。



第２図　流路183（西から）

第３図　土坑339遺物出土状況

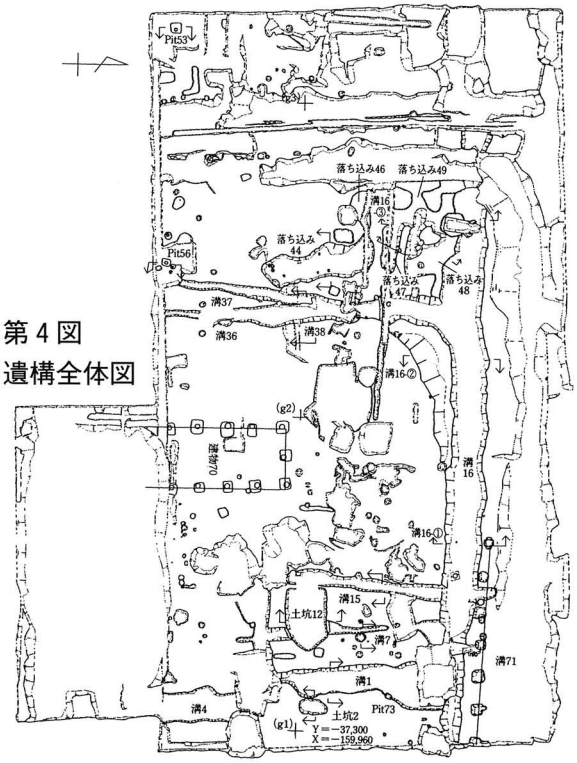
野々上西遺跡（００００４）

（１）羽曳野市野々上５丁目　（２）1,389㎡
（３）平成12年５月27日～平成13年３月30日
（４）府営羽曳野野々上住宅建替　（５）井西　貴子

野の上西遺跡は、府営藤井寺南住宅（現：羽曳野野々上住宅）の建て替えに伴う試掘調査によって、新規発見された遺跡である。

第Ⅱ期建て替えに伴う発掘調査は、平成11・12年度に渡って実施された。

本遺跡は羽曳野丘陵上に位置し、羽曳野丘陵頂部には、善正寺・塚穴古墳が標高70m前後に存在する。善正寺北辺から丘陵は急激に降下し、野中寺・竹内街道付近では標高47m、本遺跡での標高は43mである。本調査区の北側には古市大溝、東側に野々上遺跡、南側は野中寺が存在する。



第４図
遺構全体図

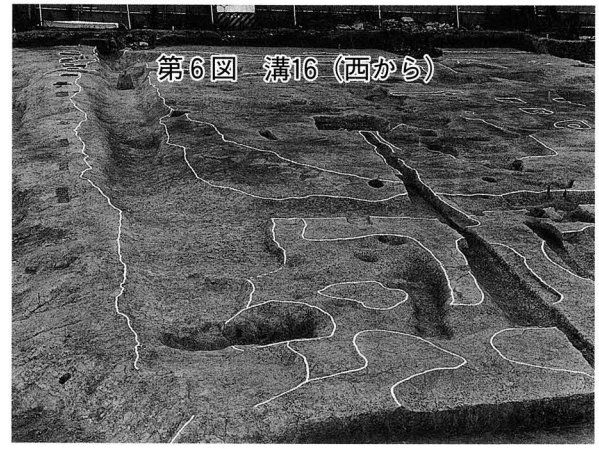
基本層序

第０層・・・府営住宅撤去後の残土。層厚40～50m。

第１層・・・7.5ＹＲ６／１、褐色土。調査区西側でのみ確認された、古墳時代から奈良時代の遺物包含層。上面は標高47.0m。層厚10～20cm。

整地層・・・10ＹＲ４／６、褐色土。調査区東側で確認された。奈良時代の遺物を包含する。上面は標高46.9m。層厚10～30cm。東に向かって厚くなる。

第５図　建物70（南から）



第６図　溝16（西から）

調査結果

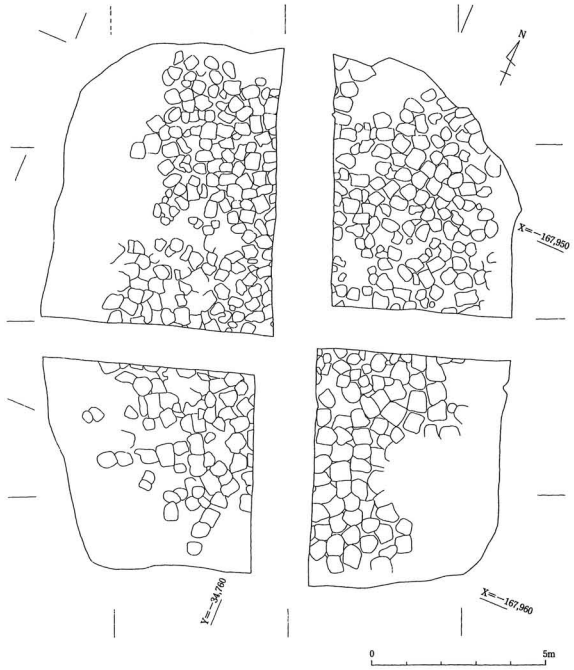
遺構面は、標高45.8m前後で、地山面１面である。建物跡・塀・溝・土坑・落ち込み・ピット等を検出した。建物70は２×５間の南北棟、主軸はほぼ南北である。溝16は東西方向に直線的に延びる。この溝より北側、古市大溝までの間は空白地である可能性が高い。溝16は、野中寺の南門より距離をとると約３町である。平成11年度調査において、東に南北方向の谷が検出されていることから、本調査地で検出した遺構は野々上遺跡とは画されており、野中寺との関連が想定できる。野中寺は建立氏族として船氏との説があり、船氏は職掌として古市大溝の管理を司る氏族である。野中寺の寺域が地形に制約された東西が２町、南北が３町である可能性も推測できる。

寛弘寺１号墳（００００５）

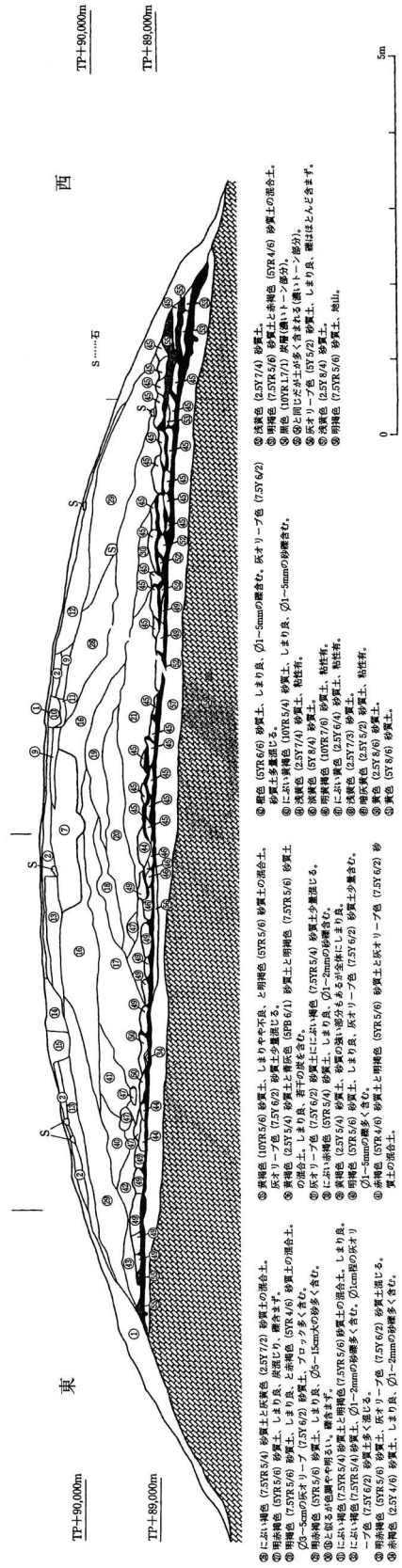
（１）南河内郡河南町寛弘寺　（２）237㎡
（３）平成12年６月６日～７月７日
（４）府営農地開発事業「河南西部地区」　（５）枡本　哲

前年度の調査で、寛弘寺１号墳は南北約21m、東西約20mの方墳、周溝をもたず、埴輪樹立の痕跡がなく、主体部は割竹形木棺を納めた粘土槨であったことが分かった。副葬品として鉄剣、鉄鏃、手鎌、直刃鎌、鋤・鍬先、蕨手刀子、鉄斧、棒状鉄器、ヤリガンナ、ノミ状鉄器、釘がある。これにより本墳は５世紀前半でも、同古墳群の中で中期以降営まれる東部丘陵の造墓の初期に位置づけられることが判明した。

今回の調査は墳丘部の構築状態を把握し、また古墳時代以前の遺構・遺物の有無を確認する目的で実施した。調査によって、前回の墳丘裾部の四方を取り巻く形で地表面に露呈していた炭灰層の堆積状況を平面的に観察でき、さらにそれ以下に存在する古墳時代以前の堆積層の内容を掴むことができた。その結果、墳丘は３段階の積み上げ作業を経て行われ、その最初の段階で旧地表面の野焼きと整形がなされ、その際に生じた炭灰を有効に利用していることも明らかとなった。なお顕著な遺物は出土していないが、これまでの調査結果と照らして、古墳時代以前のデータとしては縄文時代と考えられる堆積土も確認できた。



第７図　墳丘盛土基底面上の炭灰混りブロック平面図



第８図　墳丘東面断面図

加納・平石古墳群（００００８）

（１）河南町加納　（２）3,944㎡
（３）平成12年９月１日～平成13年３月23日
（４）中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」　（５）今村　道雄

中山間地域総合整備事業（南河内こごせ地区）に伴う加納古墳群、平石古墳群の発掘調査は、昨年度の試掘調査に引き続き、今年度から実施することとなった。今年度の調査対象地域は加納地区の約７haで、そのうち整備計画で切土予定の箇所及び既知の加納１号墳、２号墳について発掘調査を行った。

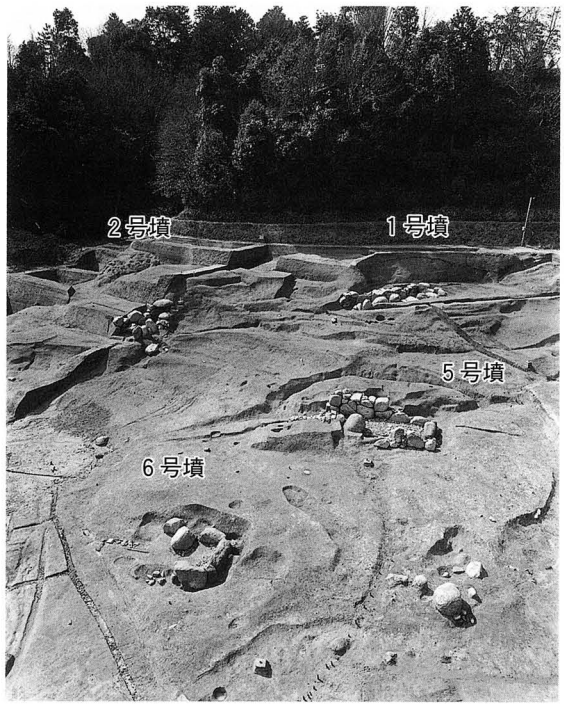
調査区は１～16区に分かれる。１区から16区は東西、南北とも300mの範囲にあり、西端の１区は標高約100m、ほぼ中央の７、９区は標高約107～113m、東端の16区は標高約117mにある。調査地はいずれも棚田地帯で西と北には小さな丘陵が、南は平石川と東西に伸びる丘陵、東は葛城山系の山々に取り囲まれ、眺望は南西方向がわずかに開けている。

調査の結果、１・７・９・11・14・16の各区で遺構、遺物が検出された。とくに９区では、既に存在の知られていた加納１号墳、２号墳に加えて、２基の古墳が発見された（加納５号墳・６号墳）。７区では、小溝群、円形土壙群が検出され、飛鳥・奈良時代の土器がまとまって出土した。

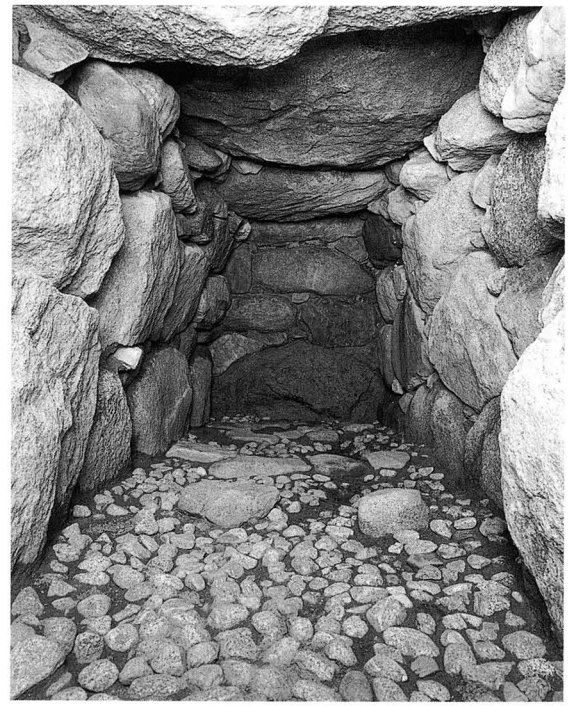
１・２号墳は標高112～113mの丘陵東斜面に、５・６号墳はその下の平坦地に築かれている。

５・６号墳は、水田の下に、完全に埋没していた古墳である。１・２・５号墳は円墳で、いずれも径14m前後。山側が溝で画されている。内部構造は４基とも横穴式石室で、１・２号墳が左片袖式、５・６号墳が両袖式。石室の現存長は、１号墳7.5m、２号墳7.85m、５号墳6.0m、６号墳3.３m。２号墳の石室は天井石まで完存しているが、他の３基はいずれも最下段を残すのみであった。ただし、１号墳の石室は昭和50年頃まで天井石の残っていたことが確認されている。各古墳の石室内から須恵器が出土しているほか、１・２号墳からは鉄釘が、１号墳から須恵器円面硯が、２号墳から赤色彩文付き黒漆鞘入り刀、中空金製耳環がそれぞれ出土している。４基の古墳は、出土遺物や遺構の切り合い関係から、１号墳が最も早く築かれ、次いで２号墳、５号墳と続き、最後に６号墳が築かれたようである。その築造時期は６世紀末から７世紀前半頃と考えられる。

なお、調査後の協議により、２号墳は現地保存が可能となったが、１・５・６号墳については、13年度の圃場整備工事実施前に、墳丘及び石室の追加調査を行うこととした。



第９図　加納古墳群全景


第10図　加納２号墳石室

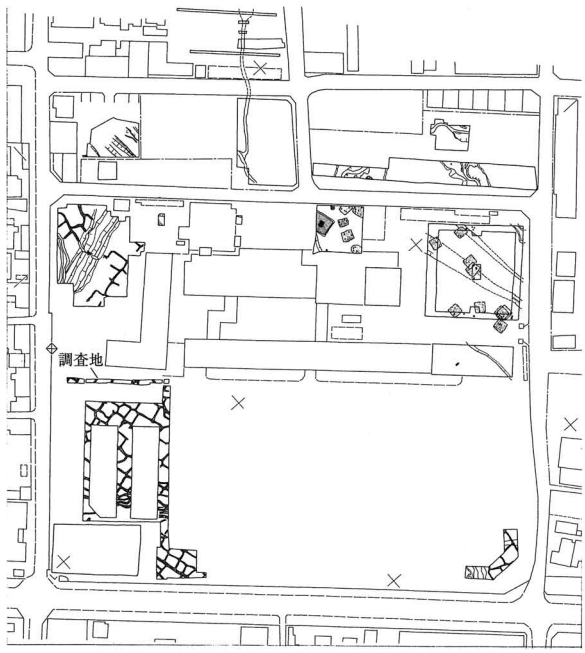
七ノ坪遺跡（００００１０）

（１）泉大津市北豊中町１丁目１－１　（２）76㎡
（３）平成12年６月12日～29日
（４）府立泉大津高校内下水道放流切替え工事　（５）亀島　重則

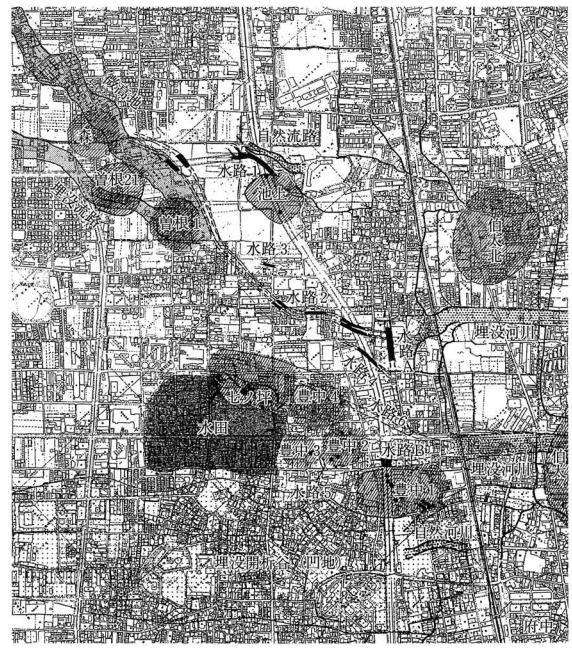
遺跡は、槙尾川の右岸に形成された扇状地で、段丘化が進んだ地形（低位段丘）に立地している。南北300m、東西300mを遺跡範囲とし、弥生時代から古墳時代の集落・墳墓跡・水田跡と考えられている。

調査の結果、第４層上面で小穴・溝、第５層上面・第６層上面で水田畦畔を検出した。第５層上面（上位水田面）では水田畦畔を８条、第６層上面（下位水田面）で２条検出した。

上位面では、調査区が狭長なため、水田１筆の全容が明らかなものはなかったが、９筆分確認できた。水口など畦畔に付随する施設は検出できなかった。下位面では、調査区がさらに限定されたため、２条の畦畔の確認から水田面の存在を確認したに留まる。調査区東端の田面高9.81m、西端で9.68mで地形的には緩やかに西へ下降する地に造成している。調査区東部で上位・下位に重複して検出された畦畔や東へ約15mの位置にある大畦畔は地形的な位置からみて主畦畔たりうる。学校敷地の北東部の微高地から南西に傾斜する地域になっている。この一帯に住居群や方形周溝墓をはじめとする墓群が発見されている。それに接するように水田が広がっている。学校敷地内から西方にさらに延びるものとみられる。水田は、南西に存在する埋没開析谷までの間に存在する浅い谷状低地あるいは泥湿地を利用したものと推定される。検出された水田は庄内期から布留式期にかけてのもので、これまでの成果からから推測すると、約２haは確実に有すると考えられる。高校敷地の南半分が該当する。さらに南への広がり、また西への広がりを推定される水路の存在からすると、さらに広がる可能性がある。２～３時期の水田経営を経て、約20～30cm程の砂層堆積により埋没する。層相から幾時期かの回数を経て堆積したとみられる。南西付近には埋没開析谷である凹地が延びていることから、常に洪水によって田面が冠水に見まわれる危険性がある。実際布留期の水田面には厚い砂層が覆われ、その後中世まで耕地としての痕跡を残していない。水田を放棄した背景には治水技術の限界により他の新たな可耕地の獲得に向かっていったとも考えられる。しかし、水田の埋没が自然災害としてもそれを復旧せずに放棄したことを単に技術的な面のみで解決できるだろうか。いずれにせよ、推定する可耕面積からすると、かなりの大打撃を受けたはずである。この生産基盤の喪失は地域社会、地域集団の支配権の激化する時期の中で大きな意味をもつ。このような七ノ坪での水田の荒廃も、泉北低地における古墳時代前期集落の動向、ひいては社会状況に大きく関わっていたと想像される。



第11図　遺構配置図



第12図　古墳時代前期水路想定図

田能（たのう）遺跡群（００００１１・００００５０）

（１）高槻市大字田能地内　（２）2,824㎡
（３）平成12年６月７日～平成13年３月23日
（４）府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」　（５）奥　和之

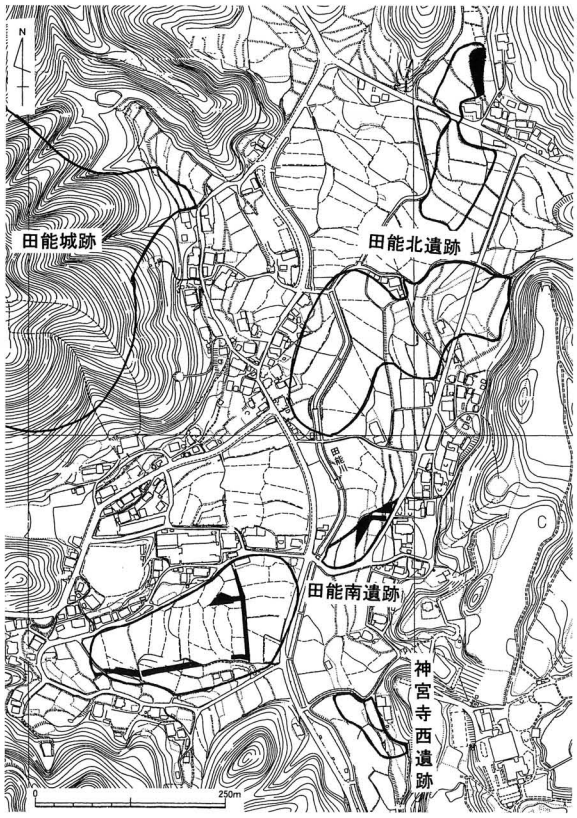
はじめに　遺跡の所在する高槻市大字田能地区は、大阪府の北東端部、北摂山地内の山間盆地（東西約300m、南北約１km）に位置する。調査は、農地還元利活用事業（樫田地区）に伴い、平成11年度から実施している。今回の調査は、上半期に田能北遺跡、下半期に田能南遺跡を、当該事業によって遺跡が破壊される部分に限定して行なった。

田能南遺跡の調査（2,211㎡）　調査は、地形毎に調査区をＡからＦ区の６地区に分けて実施し、Ｂ区では、沼状の落ち込み、Ｄ区では、建物６棟などの遺構を検出した。

Ｂ区の谷部で検出された沼状の落ち込みは、自然流路の一部と推定され、幅４m以上、深さ0.1mから0.5mを測り、落ち込み内の一部（幅約４m、長さ約６m）から、多量の建築部材と推定される加工木が、ほぼ一定方向に並べられている状況で出土した。加工木は、長さ約３m、径0.1m弱の丸太材、長さ約２m、幅約0.2m前後の角材、長さ２m前後の板材などが大半を占め、木製品は田下駄１個のみであった。これらには、ホゾ穴などの加工痕は認められないことから、使用前の建築部材と考えられる。時期は、中世（13世紀）と推定される。

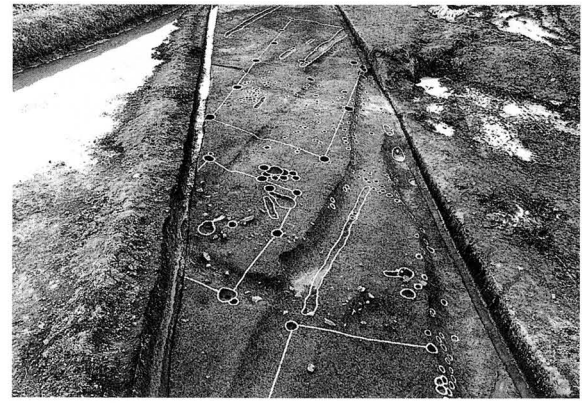
Ｄ区の丘陵縁辺部で検出された建物１・２は、約1.6m前後離れ、ほぼ軒が揃えられている。建物の規模は、建物１が１間（約3.5m）×５間（約10.0m）、建物２が１間（2.2m）×２間（3.3m）を測る。これらには、溝などの区画は存在しないが、１軒の屋敷跡と考えられ、配置状況から母屋と作業小屋（納屋）と推定される。また、北東側に近接して炉跡、それに伴う覆屋と推定される小柱穴が検出されている。時期は、平安時代中期と推定される。

田能北遺跡の調査（613㎡）　調査地は、遺跡の北端部に位置する。検出した遺構は、中世（14世紀）の建物１棟、近世の石垣２基、道状遺構１本などである。検出した建物は、作業小屋と推定される小規模な建物で、１間（約1.7m）×４間（約6.8m）を測る。



第13図　調査区位置図

第14図　田能南遺跡落ち込み遺物出土状況


第15図　田能南遺跡建物１・２

梶（かじ）遺跡（００００１３）

（１）守口市佐太東町　（２）2,954㎡
（３）平成12年７月24日～平成13年１月31日
（４）府営庭窪金田住宅建替　（５）辻本　武

梶遺跡は淀川左岸の低地に広がる遺跡である。北東に隣接する大庭北遺跡では、1983年、85年、86年に発掘調査が実施され、古墳や中世集落跡などの遺構の検出、「正和四年」銘の木簡、「美濃」刻印須恵器などの遺物の出土が報告されている。また89年の梶遺跡の調査では、３基の古墳が発見され、うち一つは帆立貝式で、形象埴輪や装飾付壷が出土した。

今回の調査では、古墳、中世集落跡、地震に伴う噴砂跡を検出した。

古墳

径18mの円墳で、周囲に８mの濠が周るものである。墳丘は全く削平されており、主体部は遺存せず、周濠のみが残存した。滑石製紡錘車や須恵器の提瓶、坏などが出土したが、遺物量は少ない。時期は６世紀後半である。

当遺跡では、当調査区より南へ250mの地点で３基の古墳が発見されており、うち１基は帆立貝式で、形象埴輪や装飾付壷などが出土している。

また当調査区より北へ230mの地点の大庭北遺跡の調査区で、１辺11mの方墳が発見されている。

中世

方形区画の大溝で囲まれた掘立柱建物２棟を検出した。建物は２間×３間の母屋に四間庇を有するものである。

大溝は前述の古墳を避けるように掘削されており、従ってこの時点では古墳は残存していたものと考えられる。

大溝の交差点付近でこの時期の墓を発見した。壙の底に数枚の板を敷くもので、頭部の位置に烏帽子、足元の位置に土師器小皿を検出した。

第16図　古墳と中世遺構

また７～８条の平行する溝群を２ケ所で検出した。畑の畝に伴うものと考えられる。

以上の中世の遺構の時期は、12世紀中頃～13世紀初頭である。

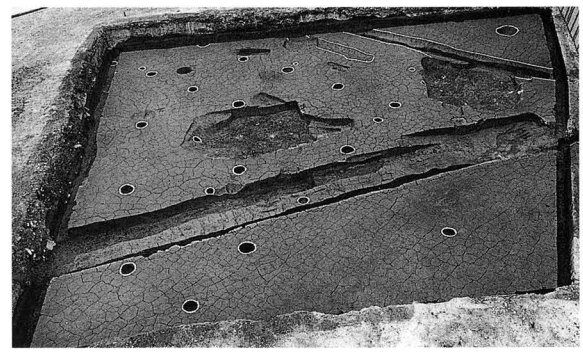
噴砂

地震に伴う噴砂の痕跡である「砂脈」を検出した。平面図では12～15mの等間隔に５条が平行して走るものである。

また大庭北遺跡においても砂脈が検出されている。当時は注目されることがなかったので報告もされなかったが、空中写真から平面図を作成してみると、60～70mの間隔で２条が100～120mにわたって平行して走る様相が確認できた。また前述の砂脈とは方向が約90度違っている。

地震考古学の寒川氏によると、噴砂は周辺の地形あるいは埋没河川等の地下の状況に影響されるもので、これらは同一地震と考えてよい。

噴砂の時期は、６世紀後半あるいはそれ以前の時期と考えられる。



第17図　中世掘立柱建物跡

第18図　噴砂の砂脈断面

百済寺遺跡（００００１４）

（１）枚方市宮之阪３丁目　（２）110㎡
（３）平成12年７月17日～24日
（４）府立中宮病院新病棟新築　（５）泉本　知秀

淀川と淀川が形成した沖積地を望む枚方台地の南西端近くに薬師寺式伽藍配置を有する特別史跡「百済寺跡」がある。その周辺一帯には、百済寺を建立した百済王氏一族が居住していたと考えられる百済寺遺跡が所在している。

府立中宮病院は、百済寺の南側で枚方台地上の南西端に位置し、敷地面積約70,000㎡を有している。当病院は、百済寺遺跡の南部に所在し、今回、病棟（2,000㎡）の新築が計画されたため、遺構の深度・種類を確認する調査を実施した。

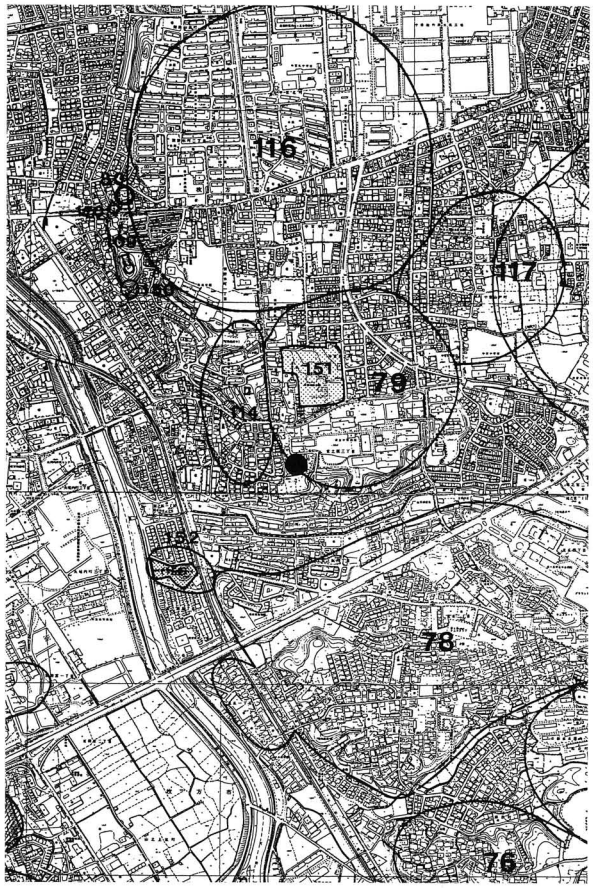
調査は、建築予定範囲の北側に２m×15mのトレンチ１本、南側に１m×12mと５m×８mの２本のトレンチ、西側に10m×２mと2.5m×3.5mの２本のトレンチ、合計５本のトレンチ、面積110㎡で実施した。

北側トレンチでは、1.7mの盛土の下は地山で地山上に一辺約61cmの掘立柱の掘方を検出した。

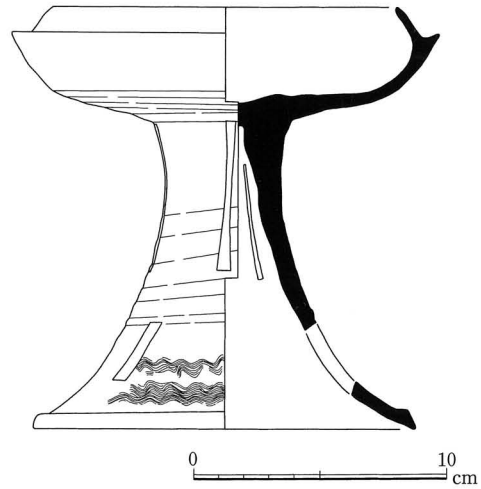
掘方内の埋土を掘削していないので、時期は不明であるが、他のトレンチの所見から推察すると古代のものと考えられる。

南側トレンチでは、1.7mの盛土の下層に中・近世の包含層（20～40cm）があり、その下は地山である。地山上に幅２m以上、現存する深さ50cmの溝が確認された。溝の肩部から須恵器の高杯、壺等数個体確認された。高杯１点のみ取り上げて、他は元位置のまま埋め戻した。溝は古墳の周溝と考えられる。古墳の時期は、出土した須恵器から６世紀後半と考えられる。

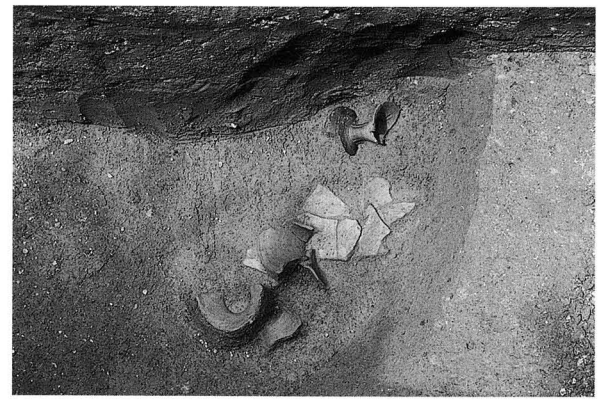
西側トレンチは、台地の西側傾斜部に掛かっており、盛土が３m以上存在することを確認したが、一部では地山を確認できなかった。



第19図　調査地位置図（Ｓ＝１／20,000）



第20図　須恵器高杯


第21図　周溝内出土状況（南から）

陶器南遺跡（００００１７）

（１）堺市陶器北　（２）3,263㎡
（３）平成12年７月31日～12月28日
（４）府営ほ場整備事業「陶器北地区」　（５）西川　寿勝

本遺跡は堺市陶器北に所在し、ほ場整備事業に伴って94年度より発掘調査されている。今回調査区は一連の調査の内もっとも南東の高所に位置する3263㎡について実施した。

調査の結果調査区中央の大半は戦中・戦後の開墾で地山ごと削平されており、良好な遺構・遺物は残されていなかった。

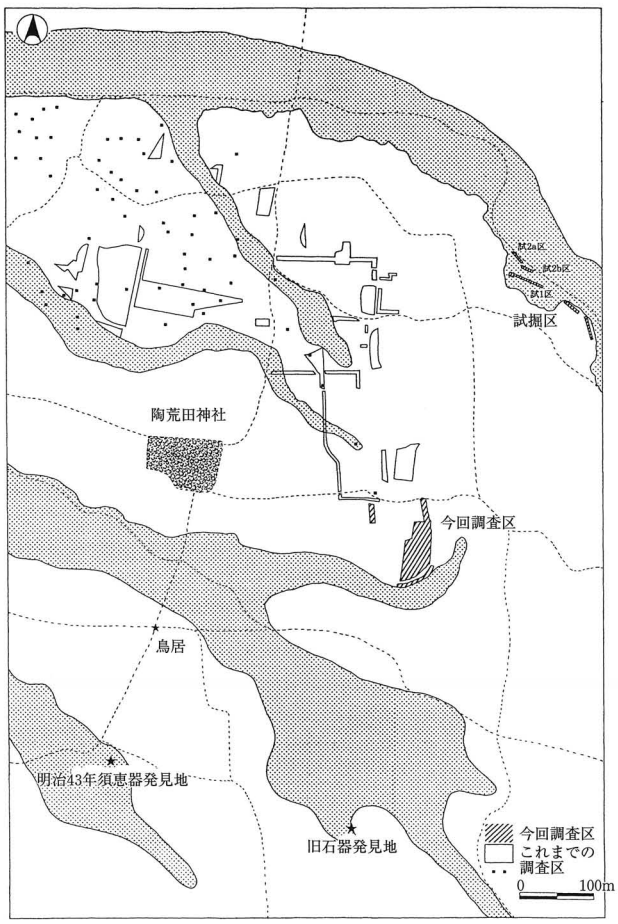
調査区南端の谷斜面にかけては飛鳥時代（７世紀前半～末）の掘立柱建物群と土坑など、斜面下方からは同時代の須恵器が多数確認出来た。陶荒田神社北方丘陵の調査で６世紀後半と８世紀前半の焼けひずんだ須恵器などと倉庫群がで確認されている。今回の発見はその間の時期を埋めるもので古墳時代から律令時代に及んで当遺跡集落が須恵器の物流拠点となっていたことがうかがえる。

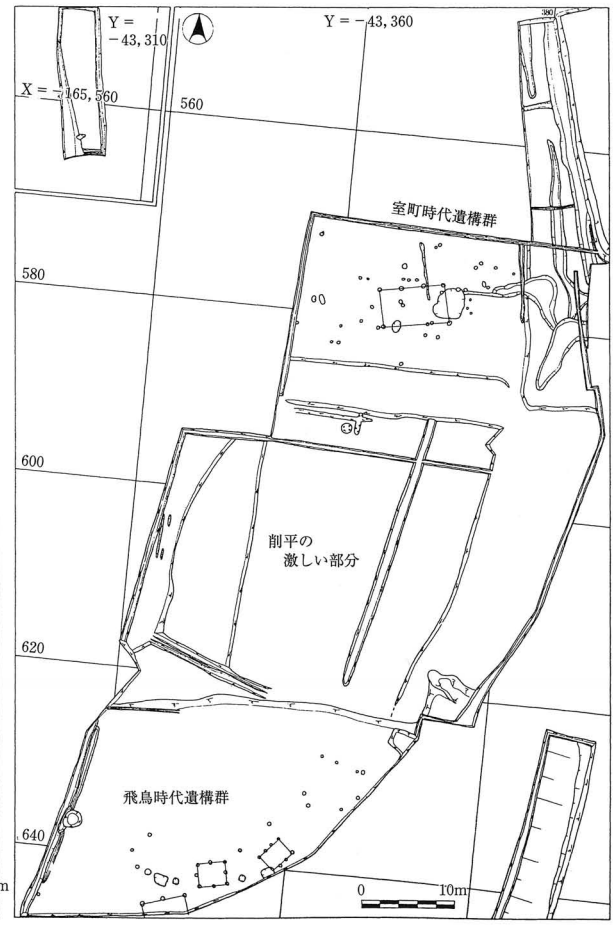
その一方、調査区北端では室町時代前半頃の瓦器碗を伴う掘立柱建物や南北溝群が確認された。溝群は傾斜面をひな壇造成した際の区画・排水溝と考える。これまで調査区の北方から平安時代末～鎌倉時代の建物群が多数確認されており、中世集落の広がりが更に南まで及ぶこと、一部は室町時代まで存続することがわかった。

また、調査区の北、700m程の地点にある老ノ池南斜面で遺跡の広がりを確認する試掘調査を実施した。斜面には上方からの流れ込み土と共に古墳時代後期の須恵器や中世の土器・瓦などが確認された。斜面の下は旧陶器川の河川堆積物が厚く見られた。その一部に沼状のよどみがあり、６世紀後半の須恵器大甕などが転落した状態で発見された。上流の窯で焼かれた製品が川づたいに運搬された痕跡を示すものかもしれない。

その他、老ノ池内にあるＭＴ19灰原から古墳時代後期の須恵器を、調査区南の馬池南堤からナイフ形石器を採集した。

以上の詳細については本年３月刊行の『陶器南遺跡発掘調査概要』８．をあわせて参照されたい。





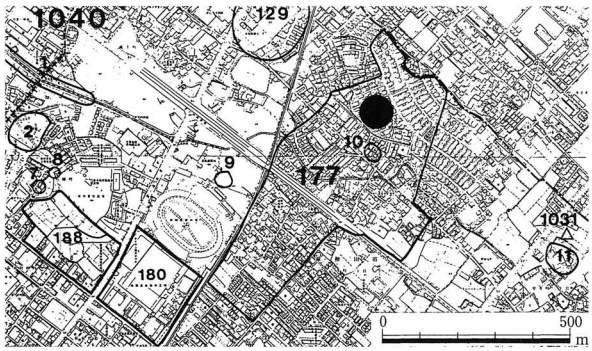
第22図　これまでの調査位置図と遺構全体図

吉井遺跡（００００１８）

（１）岸和田市吉井町３丁目地内　（２）4,648㎡
（３）平成12年８月１日～平成13年３月30日
（４）府営岸和田吉井第４期（その２）住宅建替　（５）竹原　伸次・井西　貴子

吉井遺跡は岸和田市の北部に位置する。周辺には平安時代後期の寺跡とされる吉井上品寺跡(10)、「家」の字が墨書された平安時代の須恵器皿が出土した吉井一の坪遺跡（９)、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である春木八幡山遺跡（２)、八幡古墳（８)、権現山古墳（７）などの遺跡が所在している。

吉井遺跡ではこれまでに（財）大阪府埋蔵文化財協会（現（財）大阪府文化財調査研究センター）岸和田市教育委員会によって調査が実施され、弥生時代の溝、古墳時代後期の土坑、平安時代、中世の掘立柱建物跡、土坑、溝等を発見している。

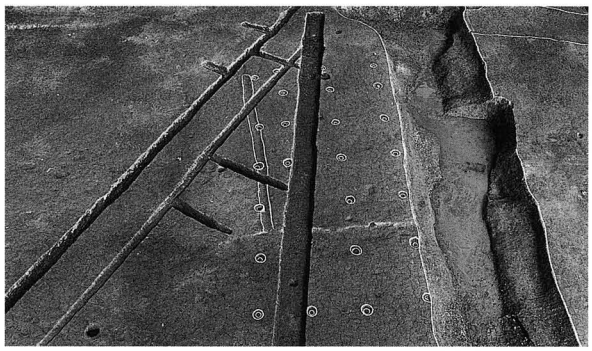


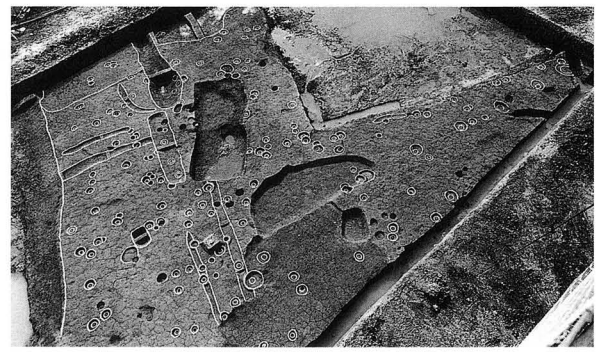
第23図　調査地位置図

本府教育委員会では、平成11年から府営吉井住宅建替えに伴い、吉井遺跡の調査を実施している。昨年度の調査では、弥生時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡や井戸、土坑などを検出している。また、古墳時代後期から奈良時代中期にかけての大溝から「天平寶字三（759）年…」と墨書された木簡が出土している。

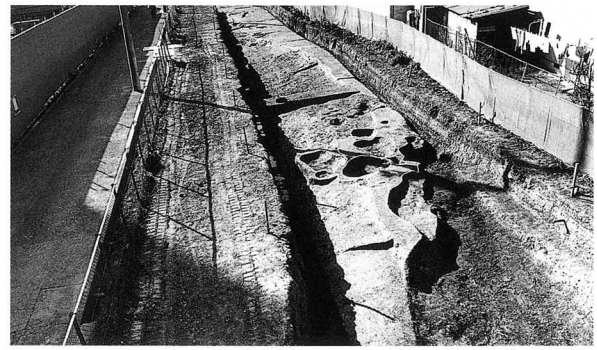
今年度の調査は、住棟・駐車場・新設道路など７ヶ所の調査区を設定して調査した。

第１・２・３調査区の東側は地表下約0.2～0.3ｍで地山となる。この地点からは、粘土取り穴と思われる土坑のみを検出した。出土した遺物から時期は14世紀中頃と思われる。地山は北東から南西に向かって徐々に傾斜しており、南西部分では地表下約0.7～0.8ｍで地山となる。この部分から３面の遺構面を確認した。遺構は掘立柱建物跡・溝・土坑・井戸等を検出した。時期は、第１面が14世紀中頃、第２面が13世紀、第３面が12世紀と考えられる。また、第４調査区では、木簡が出土した大溝の北側の肩を検出した。上層からは瓦器が出土し、この溝が最終的には、中世まで存続していたことを確認した。


第24図　１区掘立柱建物跡


第26図　２区第２面掘立柱建物跡

第25図　２区第１面掘立柱建物跡


第27図　４区大溝

総持寺遺跡（００００２６）

（１）茨木市三島丘２丁目　（２）5,400㎡
（３）平成12年８月３日～平成13年３月30日
（４）府営三島丘住宅建替　（５）阿部　幸一

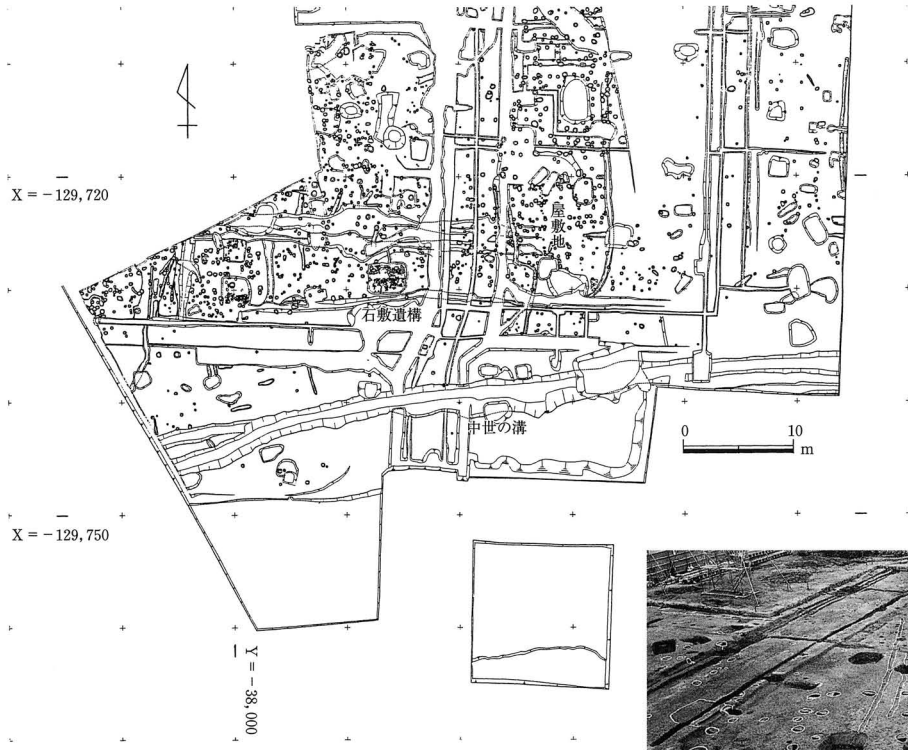
調査は府営三島丘住宅の建替えに伴うもので、1994年度から継続して実施している。これまでの調査面積は約18,000㎡に及び、台地の縁辺に近い部分で、弥生時代後期の周溝墓（方形２、円形２）や古墳時代中期の小古墳41基（円墳１、方墳40）、を検出している。また、ほぼ全域で古墳時代から中世までの集落遺構を検出している。

今回は住宅地東部で調査を実施した。調査区東南部の約１／４は中近世頃の水田開発時に約25cmの厚さで削平され、遺構は殆ど検出されなかった。それ以外では古墳時代後期の竪穴住居跡や、飛鳥時代頃から鎌倉時代頃までの掘立柱建物跡、土坑、石敷き遺構、道路遺構、溝などを検出した。

竪穴住居は北部で１基検出した。７世紀前半頃のもので、４m×3.5mの大きさである。この住居跡の西側では併行する２条の溝で画される幅３mの道路跡を検出したが、時期を特定できない。７～９世紀頃の掘立柱建物遺構は調査区全域で確認されるが、南東部は中世遺構と重複し、切り合っているため、峻別が困難である。北部では７棟を復元できる。

鎌倉時代の遺構は調査区の中央部から西側地区で無数のピットや土坑として確認される。このピット群の中で、幅40、50cmの小溝で区画される幅10m前後の小規模な屋敷地を２箇所検出している。石敷き遺構は３箇所検出した。地面を２～４mの方形に約20cm掘りさげ、壁面に沿って人頭大の河原石を並べ、その内側には拳から人頭大までの河原石を敷き詰めた遺構で、性格は不明である。南端で検出した溝は、幅２～４m、深さ0.5m前後を測る。南側で遺構が途絶えており、中世集落の東南部を画する施設と考えられる。

総持寺遺跡では古墳時代の竪穴住居は１、２棟で散在する傾向が見られる。また、奈良平安時代の掘立柱建物はこれまでの調査地全体で確認されており、今後の作業でいくつかの集団に分けることができると考えている。



第28図　南部調査区の遺構（上）と北部調査区の遺構（竪穴住居、掘立柱建物跡）（右）

西大井遺跡（００００２７・００００４４）

（１）藤井寺市西大井１丁目407－１　（２）1,268㎡・1,468㎡
（３）平成12年９月５日～平成13年３月30日
（４）大和川下流東部流域下水道事業大井処理場水処理施設建設（第二期）　（５）大樂　康宏

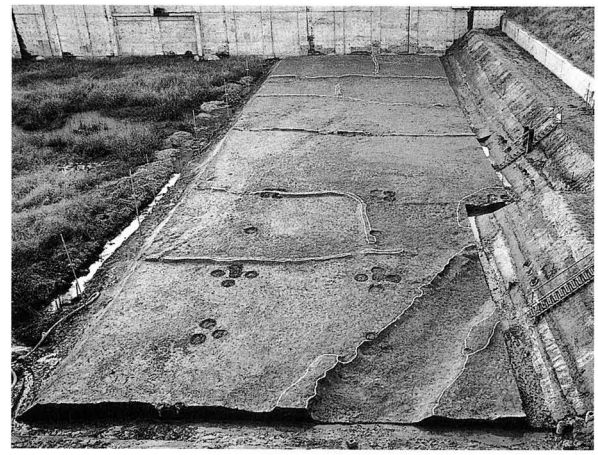
西大井遺跡は大和川下流東部流域下水道事業大井下水処理場の各施設建設に先立ち昭和54年から平成12年まで、20次にわたる調査が実施されてきた。

西大井遺跡周辺は現地形において条里型地割りをよく残しているが、これまでの調査で平安時代から明治時代に至る水田面が幾層にも重なり検出されている。また、旧石器ユニットや縄紋時代・弥生時代の遺構をはじめ、古墳時代前期の方形周溝墓や竪穴住居跡、おびただしい数の土壙墓群も検出されている。

第29図　調査地遠景

平成12年度の調査は、水処理施設（第二期）建設に伴う事前調査の３年度目にあたり、調査区（その１）・平成10年度調査区の北側と、調査区（その２）・平成11年度調査区の南側の２カ所に分かれる。平成10・11年度の調査で検出した各遺構面の遺構の拡がりを確認することを主眼としたが、今回調査からは、文化庁の指導もあり、平安時代後期の遺構面（第４遺構面）以下を対象として、旧石器時代相当面までの調査を行った。隣接する平成10・11年度の調査では上層遺構面として江戸時代後期の島畠、江戸時代中期の水田が検出されている。

平安時代の水田面は３面（第４遺構面・12世紀後半、第４ｂ遺構面・11世紀中葉～後半、第５遺構面・10世紀後半）検出した。いずれも現行条里に重なる坪境畦畔を伴う条里型水田で、小畦畔もよく遺存している。ただ、平成10年度調査で確認されたもっとも古い水田（第５ｂ遺構面・９世紀）は確認できなかった。当地の条里制の初現に関わるものであり今後の調査を待ちたい。



第30図　調査区（その１）第５遺構面

第31図　調査区（その２）第５遺構面

下面の弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面（第６遺構面）では南北の浅い谷の最終埋没面を検出した。この谷は各埋土の出土遺物から縄文時代後期から弥生時代にかけてゆっくり埋没したものと思われる。この谷の西肩は西接する平成４年度の調査区で約2000基にも及ぶ土壙墓群が検出されており、前回調査でも一部検出されている。今回調査では明確に土壙墓と判別される遺構は検出されなかった。

地山面（第７遺構面）は調査区（その１）で直上層から縄文時代中期後葉～後期の土器やすり石などが出土したが遺構は検出されなかった。また、調査区（その２）では平成12年度調査で旧石器ブロックを検出した面と同一面である。若干の剥片が出土したが集中地点は見出せなかった。

金岡西遺跡（００００２８）

（１）堺市金岡町地内　（２）1,314㎡
（３）平成12年９月20日～13年２月８日
（４）都市計画道路南花田鳳西町線建設工事　（５）亀島　重則

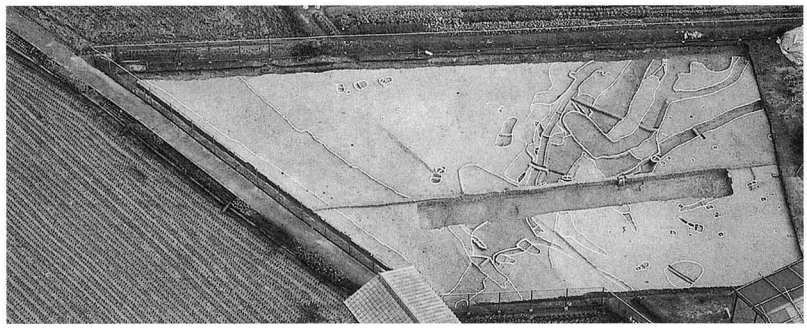
遺跡は道路建設に先だって行った試掘調査（1998年12月）で発見され、本調査としてすでに第１次調査（2000年１月～５月）が実施されている。今回の調査はこれに続く第２次調査である。

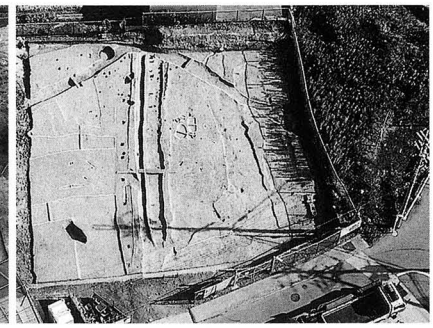
調査地は、洪積段丘段丘中位面上に立地している。この段丘面は南から北に向かって傾斜している。今回の調査地の北端にあたる１次調査のＡ区北の地表面で、標高25.4m、南約170mの２次調査Ｂ区南で、27.8mと比高差約2.4mで約１／100強の傾斜をもつ。

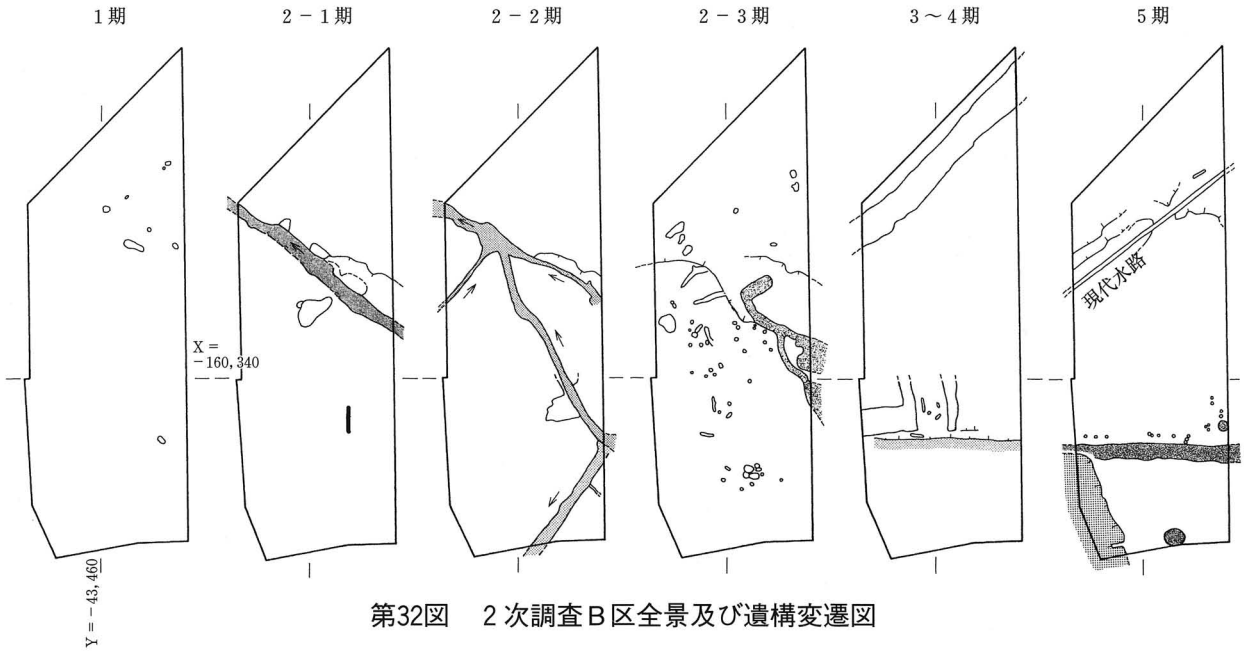
第１次調査Ｂ区の南側に接する面積211㎡の用地（Ａ区）と、さらに約20m離れた面積1103㎡の用地（Ｂ区）に分かれる。第３層・第４層・第７層（地山）の上面で遺構を検出した。

Ａ区　耕作土床土の第２層下面（ＴＰ26.1～25.95m）で土坑・小溝（鋤溝）・ピットを検出した。第３・４・８層上面では土坑・小溝・ピットを検出した。調査区の東から北側にかけて存在する。１面・２面、ともに土坑・小溝・ピットから耕作地の状況を示すものと考えられる。

Ｂ区　遺構は耕作土床土の第２・３ｂ・４層下面、第８層地山面で検出された。検出された遺構としては大溝・溝・小溝・土坑・ピットなどがある。遺構はほぼ全域に広がるが、部分的に遺構分布に粗密がある。また、第２層下面で検出された若干のもの以外は、ほとんど地山面で検出されたものである。全体に遺物の出土が少なく、とくに遺構に共伴するものが少なく、遺構の年代決定が難しい。おおよそ平安時代から鎌倉時代の遺構群（２―１～２―３期）、中世から近世の遺構群（３～４期）、近世から近・現代（５期）にかけての遺構に分かれる。いずれも耕地に関連する水路や畦畔あるいは鋤溝といった施設や耕作痕などであり、営農の実態を具体的に示す。







第32図　２次調査Ｂ区全景及び遺構変遷図

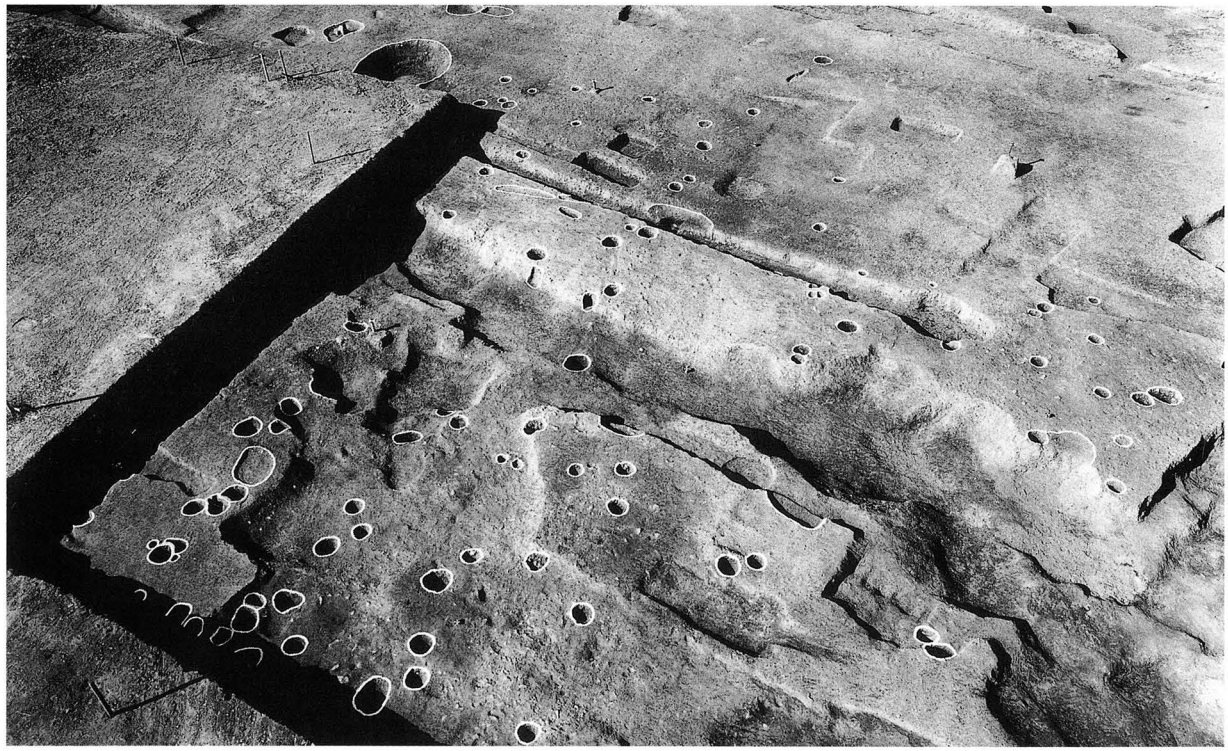
磯之上十ノ坪遺跡（００００２９）

（１）岸和田市磯上町１丁目　（２）3,308㎡
（３）平成11年10月２日～平成12年３月31日
（４）府営磯之上住宅建替　（５）枡本　哲

磯之上十ノ坪遺跡の調査地点は、東南から西北に延びる和泉山脈の前衛山地に派生する丘陵の突端、大津川の左岸丘陵尾根筋の海岸低地と段丘面の境界に位置する。この境に沿って北東から南西に通る紀州街道が調査区北側を限る。調査区周辺一帯は丘陵、河川の延びる方向にほぼ一致して、条里の地割りがよく発達した地区として知られている。

今回の調査では、12世紀後半から13世紀前半の建物、井戸、溝など中世遺構が、調査区南部を中心として検出された。建物は主屋２間×２間、１間×１間のものがそれぞれ１棟検出され、それ以外は調査区外に及んで全景を知りえないが、さらに４棟程度の建物があったと考えられる。一部の建物では柱根の残りも認められた。井戸は３基検出されたが、うち１基は近代のものである。ほかの２基は上記の建物と共存したと考えられる。そのうちの１基からは残りのよい瓦器椀、土師器皿、瓦質甕が出土した。このような南部の状況と比べると、北部は包含層の堆積は認められたが、検出面レベルが南部に比べて低く、北部の段丘礫層に対して軟質の粘質土・砂が地盤であることと、西北の海岸低地に至る傾斜変換地形とも相俟って、人為的に営まれた生活遺構はほとんどない。これによってちょうど一丁四方に相当する調査区内で、屋敷地のような居住区域とそうでない自然地形に依存した区域の２つのありかたが区分できる。そして居住区域では建物、溝など遺構の大半が条里の地割りに沿うことが確かめられた。これは地籍図との照合により、周辺の旧来の集落との位置関係をたどることができるばかりか、その集落の発達そのものを考える有効なデータともなる。

遺物としては、海浜の生活を特徴づける土錘や蛸壺が出土している。土錘はほとんどが紡錘形のもので、この種の土錘は耕作土を除去した段階から出土し始める。ほかには棒状の端部に円孔を穿つものや、溝状の紐掛けを外面につけたものもあるがきわめて少ない。蛸壺では真蛸用と飯蛸用がある。後者ではいわゆる鐸形壷が多い。しかしこれらの漁具の多くは包含層出土品である。その他の遺物としては、瓦器、須恵器、土師器、陶磁器の日常雑器類がある。一方、中世包含層から出土した須恵器は、中世以前の、特に７、８世紀の遺構が存在した可能性を物語る。ただこの時期の遺構は条里の地割りに沿わない溝状の遺構が１カ所で検出されているにすぎない。



第33図　調査区南部建物群

宮野遺跡（００００３６）

（１）門真市上島町　（２）1,307㎡
（３）平成12年10月10日～平成13年１月12日
（４）府営四宮鉄筋住宅建替　（５）藤田　道子

宮野遺跡は門真市北東部、古川と寝屋川の間に位置している。遺跡内には『古事記』・『日本書紀』に、仁徳天皇が築いたと伝承されている茨田の堤とされる堤防状遺構も残り、その一部は大阪府指定文化財の史跡となっている。これまでの遺跡の調査では古墳時代の土師器、須恵器、中世の瓦器椀、土師器などがみつかっている。昭和55年に行われた遺跡で初めての本格的な発掘調査は、茨田の堤伝承地に隣接した場所で実施された。このときの発掘調査では、堤に沿うかたちで築造された室町時代の木組みが発見されている。古墳時代の遺物を含む土層も発見されているが、この時代の遺構は検出されていない。

今回の調査区は門真市上島町に位置する。府営四宮鉄筋住宅の建替えに伴い試掘調査が実施され、宮野遺跡の東側への遺跡範囲拡大が確認された。試掘調査の結果、現地表面から比較的浅い40cmほどの深度に遺物包含層が残存することが判明し、府営住宅敷地内南西部は発掘調査が実施されることとなった。

調査結果

基本層序

調査地は古川と寝屋川にはさまれた低湿地であり、遺構面が確認されたのは調査区中央部分のみである。建替え前の府営住宅やそれに伴う埋管によるカクラン坑が多数あり、層序が連続して認められるところが少ないが遺構面が確認できた南壁断面から基本層序を説明する。

第１層　盛土、整地層　調査区全域に存在する。
第２層　旧耕作土　調査区全域に存在する。
第３層　黄褐色シルト　ほぼ全域に存在する土師器、瓦器などを含む遺物包含層。この層を除去した段階で第１面を検出した。層厚さは約20cm。
第４層　黄灰色シルト～暗灰黄色粘質シルト　調査区の中央部分のみに残存する土師器、瓦器などを含む遺物包含層。この層を除去した段階で第２面を検出した。層厚さは約20cm。
第５層　第４層の下層に堆積する。黄灰色と灰色粘土の互層。
第６層　青灰色～褐色の洪水砂層。この層以下は洪水堆積層が続く。

主な遺構と遺物

第１面

第１面では調査区の西側で耕作に伴う鋤溝群、中央部分で土坑などを検出した。検出面のレベルはＴ．Ｐ．＋1.6m前後である。いずれも耕作伴うものであり、中世以降に掘削されたものであると思われる。

第２面

第２面では耕作に伴う鋤溝、ピット、大溝、土坑などを検出した。調査区中央西よりで東西幅約15mでの検出である。検出したピットは平面形が方形のものがほとんどである。

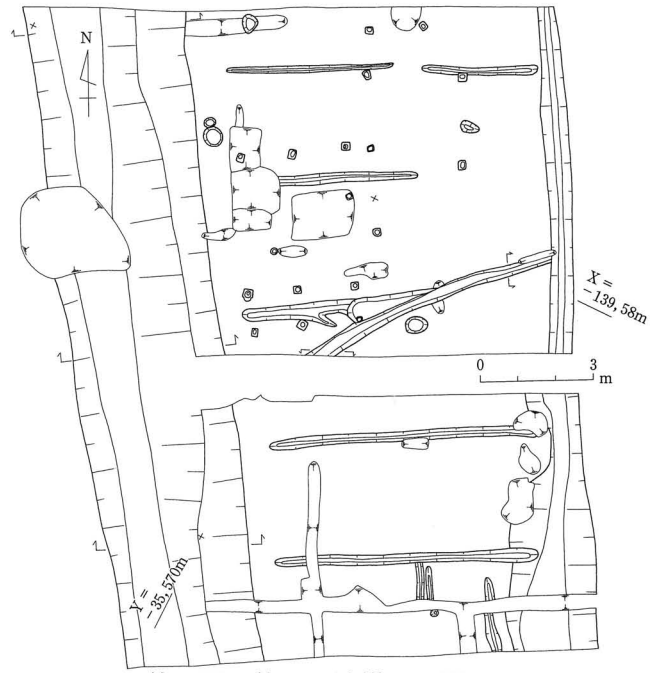
長方形に並んだピットから掘立柱建物を一棟復元した。建物は東西２間×南北２間、南側に１間の庇をもつ。西側は削平されている可能性があり、規模は大きくなる可能性がある。

第２面の遺構の時期は出土した瓦器椀から12世紀前半～中葉と思われる。

まとめ

調査区一帯はもともと地下水位の高い後背湿地であったが、12世紀前後からやや地盤の高い場所を選び居住地や耕作地として開拓されていったと思われる。しかし一時的に建物が存在しただけで、その後は洪水に見舞われ、再び湿地化していったようである。このような低湿地にもかかわらず開発が進められたのはこの地が京と大坂を結ぶ交通の要地であったからである。

これまで門真市内の中世の遺跡からは、明確な建物跡が検出されていなかったので、いささか断片的であるが、空白を埋める資料となると思われる。



第34図　第２面遺構平面図

紅茸山南遺跡（００００４５）

（１）高槻市安満北の町　（２）1,600㎡
（３）平成12年12月15日～平成13年３月30日
（４）府営ため池等整備事業「安満新池地区」　（５）泉本　知秀・山上　弘

高槻市安満北の町に所在する安満新池の堤体改修についての事業計画が、北部農と緑の総合事務所から挙がり、遺跡の有無についての照会があった。文化財保護課は、協議のうえ平成12年12月に試掘調査を実施した結果、多数の遺構および弥生土器、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が検出されたため、新規発見のこの遺跡を「紅茸山南遺跡」と命名し、堤体改修工事に先立ち、発掘調査を実施することとなった。

周辺の環境

改修工事の対象となった安満新池は、北摂丘陵から大阪平野に流れ出した檜尾川が形成した扇状地基部に当たり、明治年間に新たに築造された池である。

紅茸山南遺跡の周辺には、弥生時代の遺跡が多数分布している。弥生時代の拠点集落として名高い安満遺跡は淀川右岸の大阪平野最奥部に立地する。この遺跡を中心とした分村が北摂山地先端の丘陵部にいくつかの高地性集落を造る。そのひとつである紅茸山遺跡が北東に隣接する。当遺跡は、安満遺跡から北に800m、紅茸山遺跡から東に400mの位置に所在する。

古墳時代には、青龍三年銘の方格規矩四神鏡や三角縁神獣鏡が出土して有名になった安満山古墳を東600mに直接望むことがでる。また、同じこの山塊にも後期の群集墳が作られている。

調査の成果

今回の調査は、安満新池の南側堤体と東側堤体に刃金土を入れ堤体の規模を拡大する工事と、樋門（取水塔）の改築工事で破壊される部分1,600㎡を対象とした。

遺構面は、中世遺構面および地山面に分けることができ、地山面からは古墳時代・弥生時代の遺構が検出される。部分的にはこの両時代と中世を２面に分けることができ、都合４遺構面が存在することになる。中世遺構面のベース層である包含層には多量の土器が包含されていた。地山面の標高はＴＰ17m前後を測る。

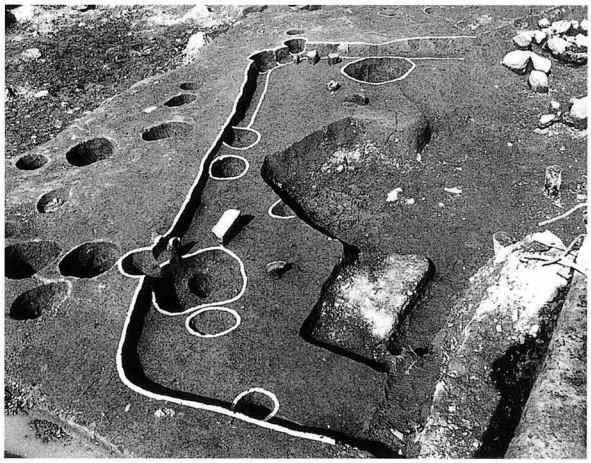
弥生時代の遺構は、調査地南東部で検出された土坑、ピットである。中期中葉と考えられる。

古墳時代の遺構は、前期前半の溝、土坑が調査区南東部に集中して検出された。

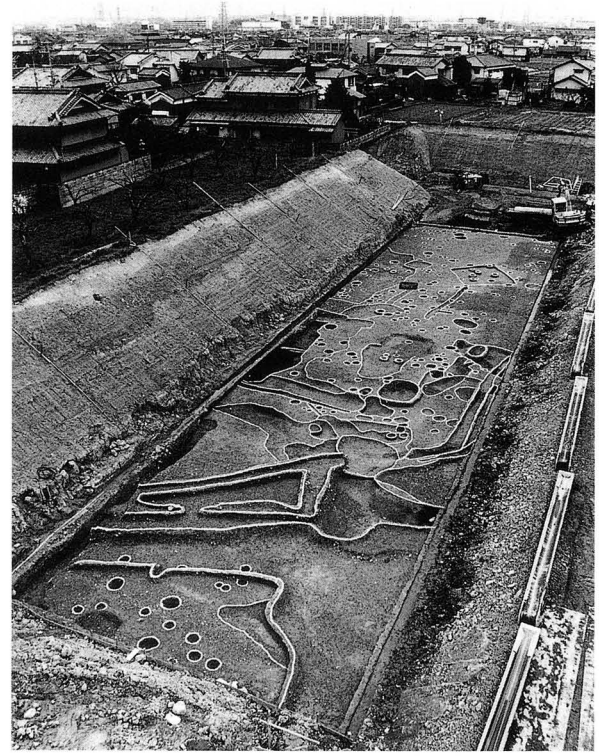
中期の遺構は調査区の全域で検出され、竪穴住居跡２棟、土坑、溝、ピットが拡がることから集落の一角を占めると考えられる。

古代は掘立柱建物跡、中世は調査区南西部および北部で、溝、土坑、井戸、ピットが検出された。

今回の調査では弥生時代中期から中世に至る各時期の遺構、遺物が検出された。当初予想された檜尾川の旧流路は検出されず、当遺跡は紅茸山から派生する丘陵に立地している。



第35図　古墳時代竪穴住居跡



第36図　堤体と調査区

讃良郡条里遺跡（００００４６）

（１）四條畷市大字砂・蔀屋　（２）25㎡
（３）平成12年11月８日～12月19日
（４）寝屋川市南部流域下水道・なわて水環境保全センター建設　（５）宮崎　泰史

讃良郡条里遺跡（蔀屋北遺跡）は、岡部川によって形成された自然堤防上とその後背湿地に立地する弥生時代から中世にいたる遺跡である。古墳時代においては、この遺跡の西方に河内湖岸がせまっていたものと推定されている。今回の試掘調査（第２次試掘調査）によって、新規発見された遺跡である。遺跡の一部は、寝屋川市から四條畷市にかけて広がる讃良郡条里遺跡に重複する。

遺跡発見の経緯は、この地に、寝屋川南部流域下水道・なわて水環境保全センター建設が計画され、大阪府教育委員会では周知の讃良郡条里遺跡の範囲に該当することから、平成12年３月13日～４月11日にかけて、水処理施設（浄化槽）の建設予定地内北半部に、試掘調査（第１次試掘調査）を実施したことに基因する。なお、調査時の遺跡名は讃良郡条里遺跡＜調査番号99070＞で行っている。第１次試掘調査の結果、古墳時代の土坑・溝・柱穴、中世から近世の耕作面・溝・畦畔が検出され、集落遺跡が存在することが明らかとなった。さらに水処理施設（浄化槽）予定地内南半部についても讃良郡条里遺跡の範囲をこえて更に、遺構面が広がることが予想されたので、人力掘削土量の算出データ・遺構面の確認・条里の時期・古墳時代遺構面の広がり・弥生時代遺構面の有無など、より詳細なデータを得ることを目的に、今回、試掘調査を実施した。

第２次試掘調査は、水処理施設（浄化槽）の予定地内南半部に、５m四方のトレンチ一ヶ所（Ｅ地区）を設定して、実施した。

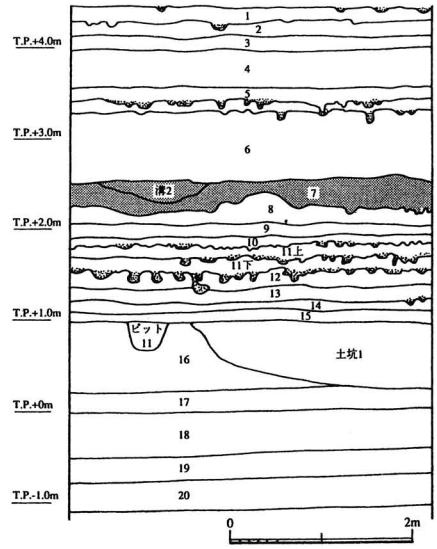
Ｅ地区の調査では、14枚の遺構面を確認した。検出した遺構は、近世から古代の耕作にかかわる足跡や畦畔、柱穴、溝。そして、古墳時代（５～６世紀）では、２枚の遺構面を確認している。上面では溝や杭跡、下面では土坑、柱穴（柱材が残る）が検出された。土坑１は長さ約3.8m以上、幅約2.0m、深さ0.7mをはかる。北側は調査区外にあるため、平面プランは不明であるが、さらに広がるものと考えられる。

出土遺物

土坑１からは多量の５世紀後半～末の須恵器・土師器とともに鳥足文タタキメの認められる韓式系土器（陶質土器）や滑石製の双孔円板・臼玉、そして移動式かまどやＵ字形板状土製品が出土した（写真１）。さらに炭層や灰層に混じって夥しい数の製塩土器（推定1500個体、重量約76kg）が同時に発見され、付近で粗塩を精製していた可能性が考えられた。

以上、第２次に亘る試掘調査の結果、広い範囲に亘って古墳時代を中心とする集落の存在が明らかとなり、古墳時代の集落跡として、遺跡の性格をより明確化するため、讃良郡条里遺跡から独立した遺跡として、蔀屋北遺跡とした。

第37図　土坑１遺物出土状況（上方が東）



第38図　Ｅ地区西壁の基本層序模式図

禅城寺遺跡・宇保遺跡（０００４７）

（１）池田市宇保町　（２）310㎡
（３）平成13年１月９日～３月30日
（４）都市計画道路神田・池田線道路拡幅　（５）泉本　知秀

都市計画道路神田・池田線道路拡幅工事は南北約850m分が予定範囲である。平成９年度から毎年発掘調査を継続しており今年度は４年目になる。道路拡幅予定地全域が遺跡で北から禅城寺遺跡、宇保遺跡、神田北遺跡として分布図に登録されている。予定地内で立退き問題等が解決したところを毎年少しずつ発掘調査を行っている。今年度は道路の西側で禅城寺遺跡内で３ヶ所、宇保遺跡内で２ヶ所、計310㎡を発掘調査した。北からＡ区、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区、Ｅ区とする。

Ａ区は東西幅4.5m、南北長さ15.1mの範囲を調査した。現地表から約50cm掘り下げたあたりで土坑５基、ピット３個、溝１本を検出した。土坑は長径１m以下で瓦器等の破片が出土した。ピットは径20cmから30cm前後である。溝は幅１m前後、深さ30cm前後であった。遺物は出土しなかった。溝の埋土は茶褐色粘土であり埋土から判断して年代は奈良時代前後に属すると考えられる。更に10cmから20cm掘り下げると大溝２本が検出された。幅は３mから４m前後で深さは60cmから１m前後であった。いずれも遺物は出土しなかった。埋土は暗茶褐色粘土であり、この数年の調査例から判断して弥生時代に属すると考えられる。地山は黄色粘土層で、最上面から旧石器時代のサヌカイト剥片が１点出土した。

Ｂ区は東西幅1.5m、南北長さ16mを調査した。厚さ1.1mの盛土、旧耕土、床土、わずかの中世包含層を取り除くと黄色粘土の地山層であった。幅６m前後の大溝１本と幅0.4mの小溝１本、土坑３基が検出された。土坑の一つから土師器の細片が出土した。大溝、小溝からは遺物は出土していない。これらの溝の埋土は黒色粘土であり弥生時代に属すると考えられる。

Ｃ区は26㎡を調査した。厚さ1.4mの盛土を取り除くと旧耕土でその直下にわずかに包含層が残存しその下は混礫粘土の地山層であった。地山面で６個のピットが検出された。一部のピットから須恵器、土師器の小片が出土した。古墳時代に属すると推定される。

Ｄ区は東西幅６m、南北長さ20mを調査した。厚さ1.2mの盛土の下に旧耕土、床土と厚さ10cmの中世の包含層が存在する。その下は黄色粘土の地山層であるがその上面の約80％は現代の大土坑の掘削でつぶれていた。この大土坑は床土面からきりこんでおり幅1.6mから1.9mで、東西の長さは５m以上、深さ50cmから60cmを測る。埋土は粗砂または砕石ズリであった。南北に連接して掘られている。構造物の基礎痕跡かもしれない。地山面で土坑が10基、小溝１本が検出された。土坑の大きさは１m前後で平面楕円形ないし円形であった。残存深さは30cmから40cmで埋土は黒色粘土である。一部の土坑から須恵器、土師器の細片が出土した。７世紀から８世紀頃に属する。

Ｅ区は東西幅5.2m、南北長さ13.8mを調査した。状況はＤ区と同じだが、現代の大土坑の幅が広く3.2mから3.8mを測る。古い遺構ではＤ区のような径１m前後の規模の土坑は見られず、径20cmから50cmのピットが５個と幅30cm、深さ10cm前後の小溝２本が検出された。年代は７世紀から８世紀に属するものと推定される。

第39図　Ｄ区全景（南から）

唐櫃山古墳（００００４８）

（１）藤井寺市国府２丁目　（２）240㎡
（３）平成12年12月13日～平成13年３月２日
（４）府道堺大和高田線歩道拡幅　（５）佐久間貴士

１．調査に至る経過

唐櫃山古墳は、全長約53mの帆立貝式前方後円墳であり、允恭陵（市野山）古墳の陪塚と考えられる。1955年、主要地方道堺大和高田線建設に伴い、主体部を中心とした調査が行われている。

今回の調査は、歩道拡幅工事に伴い、道路建設時に削平を受けた墳丘下部の調査を行った。調査範囲は、後円部やや南側部分を東西方向に横断する、幅約３m、長さ約55mの部分である。

２．調査の成果

テラスと葺石

後円部西側の１段目テラスと２段目墳丘斜面の葺石が検出された。テラスの幅は約１mである。葺石は、基底に長径15cm前後の細長い石を並べ、その上に長径20cmから45cm前後の河原石が積み上げられていた。

テラス上に埴輪列は確認できなかった。しかし、基底石が残っていることから、テラス面はあまり削平を受けておらず、後円部１段目は埴輪の樹立間隔が広かった可能性がある。

周濠

墳丘東側で周濠が検出された。現況で幅約９m、深さは周濠外肩から約1.5mである。周濠底面には、滞水時にみられる粘土堆積が全くみられず、空濠であったと考えられる。

周濠の埋没過程

葺石を覆う古墳流土の包含遺物から、江戸時代まで葺石が一部露出していたと思われる。また、周濠上層にも江戸時代の陶磁器が含まれており、室町時代まで良好な状態で残っていた周濠が、15世紀頃にその半ばが埋まり、江戸時代には人為的に埋められたと考えられる。

古墳の盛土

古墳は西高東低の微地形上に築造されており、築造時には黄褐色粘質土の地山の上に厚さ約10cmの表土があった。墳丘築造は、旧表土上を堤状に積み上げていく作業工程をとっている。

古墳の築造年代

古墳築造年代は、出土埴輪から允恭陵古墳築造とほぼ同じ５世紀第３四半期と推測される。

３．出土埴輪

出土した埴輪は、①墳丘盛土内、②西側の墳丘斜面およびテラス周辺、③東側の周濠内、の大きく３群に分けられる。これらは、唐櫃山古墳の築造前と築造時・築造以後の時間関係を表している。

とくに、②は唐櫃山古墳に樹立されていた可能性が最も高いもので、底径約20～25cm、口径約29～33cmの小型タイプが主体をしめる。外面調整は、一次調整がタテ・ナナメハケで、二次調整は施文原体を一定間隔ごとに静止させるＢ種ヨコハケを突帯間に１単位施すか、静止痕が認められないストロークの長いＣ種ヨコハケを施す。なお、二次調整がなく、一次調整のタテハケのみの資料も認められる。内面調整は、ナデあるいは縦・斜め方向のハケで調整している。

形象埴輪では、蓋形埴輪の笠部や立ち飾り部、家形埴輪片などが認められた。

（文責　小浜　成）

第40図　１段目テラスと２段目墳丘・葺石

第41図　周濠

摩湯北遺跡（００００６０）

（１）岸和田市摩湯町　（２）754㎡
（３）平成13年１月15日～３月23日
（４）農用地総合整備事業摩湯団地　（５）藤澤　眞依

平成11年度の試掘により新たに発見された遺跡で、岸和田市摩湯町に所在する。松尾川左岸に位置する史跡摩湯山古墳の北側対岸に広がっている。ここに４箇所の調査区を設定し、調査した。

第１調査区は調査地域の東端に東北から西南方向に幅2.4m、長さ12.0mで設定した小規模な調査区である。水田面の標高はＴ．Ｐ．＋25.6mを測り、南・西側よりは１段高く、ここから北の和泉市側は全体に高くなっている。西北すぐ横の段下を現在の水路が北東から南西方向に流れている。この水路の付け替え場所である。

遺構としては段丘崖を検出しただけである。遺物は14世紀の瓦器碗を出土した。

第２調査区は第１調査区の南西約20mに幅26.0m、長さ23.0mで設定した長方形の調査区である。水田面の標高はＴ．Ｐ．＋24.4mを測る。東南すぐ横を現在の水路が北東から南西方向に流れている。

遺構は調査区東南辺で幅約３m、高さ0.1mの壇と溝を検出した。壇は調査区域外に続くため詳細は不明である。溝は幅0.3・0.6m、深度0.15・0.25mで埋土は灰褐色土であり、部分的に底部に灰色粘土が薄く堆積している。現在の水路に平行しており、当地域の最初の開発に関係する溝と考えられる。現在の水路からは約３m離れているが、開発当初から現在の地割りができあがっていたと考えられる。

遺物は須恵器の杯蓋、須恵器の杯身、青磁、東播系の須恵質擂り鉢、瓦質の擂り鉢、瓦器碗等古墳時代～14世紀までのものが主に出土した。

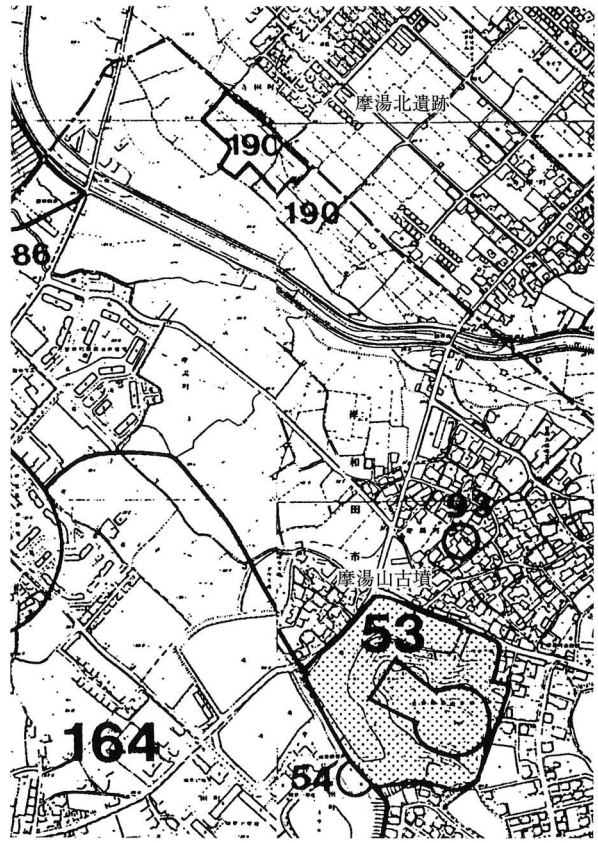
第３調査区は第２調査区の北西約80mのところに幅2.4m、長さ25.0mで設定した細長い調査区である。水田面の標高はＴ．Ｐ．＋24.1mを測る。水路部分の調査であり、西北すぐ横を現在の水路が北東から南西方向に流れている。

遺構としては段丘崖を検出しただけである。遺物は14世紀の瓦器碗を出土した。

第４調査区は第３調査区の延長線上南東約10mのところから幅2.4m、長さ28.0mで設定した細長い調査区である。水田面の標高はＴ．Ｐ．＋23.7mを測る。南西端部約５mは別の水田であるが、約１mの盛り土があり、畦等を覆っている。旧水田面の標高はＴ．Ｐ．＋23.7mを測る。水路部分の調査であり、西北すぐ横を現在の水路が北東から南西方向に流れているのは第３調査区と同じである。

遺構は検出しなかった。遺物は、14世紀の瓦器碗・瓦器小皿・土師器の小破片を出土した。

堆積土は現在の水田耕作土、床土、近世以降の耕作土、中世の耕作土と考えられる。遺物は古墳時代以降の須恵器もあり、周辺に古墳時代以降人々が住んでいたのであろうが、今回の調査範囲よりも北東側の松尾川からも離れた段丘上に当たる和泉市域に居住していたと考えられる。中世以降確実に水田として開発しているが、川に最も近い部分は比較的いようである。第１・３・４調査区横の水路は間隔が約100mあり、条里地割りの坪境である。第３・４調査区では関連するような遺構はなにも検出しなかったが、第２調査区では黄灰色土下面で水路に沿って壇上部分、黄白色粘土下面で水路に沿って溝が検出されたことから、当地域の条里地割りが確実に中世までは遡ることが明らかになった。中世以降現在まで水田として利用され続けてきた地域のようである。



第42図　調査地位置図

馬場笹カ遺跡（００００６２）

（１）貝塚市馬場字笹カ　（２）330㎡
（３）平成12年２月13日～平成13年３月23日
（４）農用地総合整備事業馬場団地　（５）藤澤　眞依

平成11年度に大阪府が試掘調査を行った結果、新たに分布図に載った中世の遺跡である。遺跡範囲はきわめて狭く、約2,000㎡である。平成12年度はその内330平方メートルを調査した。

遺跡は、矩谷川左岸から西方向に約300m入り込む谷の西側出口部分である。谷全体の面積は約４haである。事業により削平される部分および水路建設により掘削される部分を水田畦畔等により５区に分割して調査した。第１～４調査区は水路部分であり、第５調査区は削平される部分である。

第１調査区は幅2.0m、長さ20.0mの西南から東北方向のトレンチである。標高Ｔ．Ｐ．＋82.9mの水田であり、西南端では、堆積層が５層あり、Ｔ．Ｐ．＋82.2mで基盤層の黄色粘土となる。遺構は溝状のものを４条検出したのみである。黄色粘土から灰色粘土に替わる傾斜変換点付近にあり、等高線に並行している。調査区外の北から南に３条並行して伸びており、トレンチ中央部で途切れる。最も西の１条は途切れているが、延長上に溝状遺構が１条続いている。幅は0.25～0.6mとまちまちであるが、深度は0.03～0.07mと非常に浅い。埋土は黒褐色粘土と黄色粘土が混じっており、ブロック状を呈する。遺構内からは遺物が出土しなかったが上部堆積層から13・14世紀の瓦器と瓦が出土した。

第２調査区は第１調査区の北東に隣接する水田に設定した幅2.0m、長さ21.0mの調査区である。水路部分の調査であるため、第１調査区の延長上にある。水田面の高さはＴ．Ｐ．＋82.6～82.65mであり、第１調査区よりも約0.3m低い。遺構は検出しなかった。遺物は瓦器碗と土師器の小片、土師器の羽釜が出土した。

第３調査区は第１・２調査区の延長上に並ぶ幅2.0m、長さ18.0mのトレンチである。調査区は東北端で東南方向に直角に屈曲するのであるが、屈曲した部分は第４調査区として分離した。水田面の高さはＴ．Ｐ．＋82.4mであり、第２調査区よりも0.2m低い。遺構は検出しなかった。遺物は瓦器・土師器の細片を出土しただけである。

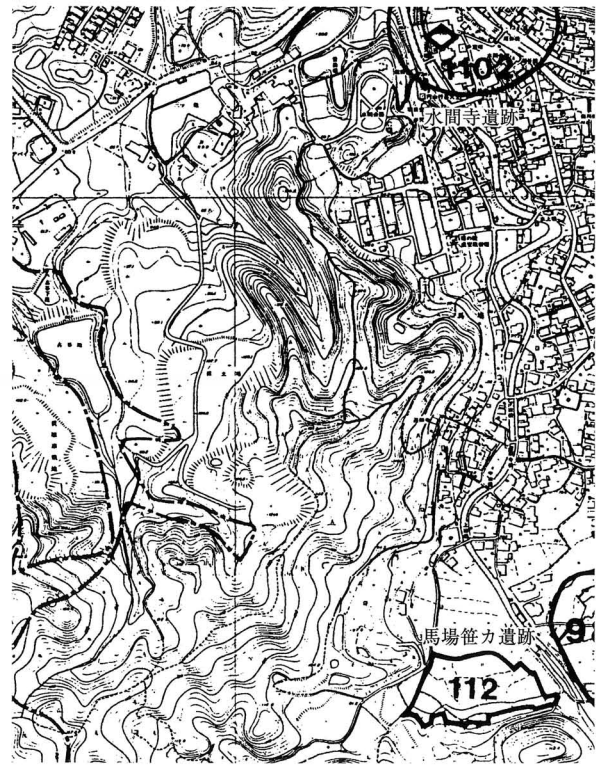
第４調査区は第３調査区東北端から直角に屈曲し東南方向に伸びる幅2.0m、長さ14.0mトレンチである。水田面の高さは第３調査区と同じ水田であるため、Ｔ．Ｐ．＋82.4mである。遺物は土師器の羽釜・瓦器碗等が少量出土した。

第５調査区は第３・４調査区東南に隣接する水田に第４調査区の延長上に並ぶ幅2.0m、長さ14.0mトレンチである。水田面の高さはＴ．Ｐ．＋81.7mであり、第４調査区より0.7m低い。

遺構は旧流路を確認しただけである。遺物は瓦器碗と土師器の小片が少量出土した。

第６調査区は第３・４調査区と同じ水田内の北側に設定した幅10.0m、長さ13.5mの調査区である。水田面の高さはＴ．Ｐ．＋81.7mである。
遺構は検出しなかった。遺物は瓦器・土師器の細片を出土しただけである。

調査地域の東端は中世以前の矩谷川が流れていたことが判った。北側は谷の中央部分に近く、人間の手が加えられなかった時間が長かったようである。最初に人間の痕跡が伺えるのは南側の第１調査区を設定した水田部分と思われる。今回はこの水田の西端部のみの調査であったため、明確な遺構を検出し得なかった。この水田の西側に沿って熊取へ抜ける旧道があり、その関係から、谷の南端の旧道沿いに何らかの遺構が検出される可能性は十分に考えられる。



第43図　調査地位置図

＜普及啓発・広報事業＞

●調査事務所の利用（平成11・12年度）

A　会議等

・平成11年９月25日
　第39回大阪府埋蔵文化財研究会
　「1998年度の大阪府内の発掘調査」

・平成12年９月23日
　第41回大阪府埋蔵文化財研究会
　「大阪府の1999年度の発掘調査を振り返る」

B　調査スライド検討会

・平成11年７月14日
　横田明「中国東北地方の考古学の旅」

・平成11年９月８日
　芝野圭之助「ふるさとの伝統産業・砂糖」

・平成11年10月13日
　宮野淳一「『仙界伝説－卑弥呼の求めた世界－』より」

・平成11年12月８日
　三木弘「横須賀市所在の長沢１号墳について」

・平成12年１月12日
　江浦洋「大坂城跡の調査成果」

・平成12年２月９日
　広瀬雅信「新堂廃寺98年度整理中間報告」

・平成12年３月８日
　佐久間貴士「ベトナムの日本人町」

・平成12年７月12日
　大野薫「近畿地方の終末期土偶」

・平成13年２月14日
　山本彰「河南町加納古墳群とその周辺の終末期古墳」

C　施設見学

・平成12年11月27日
　泉北教養講座　約30人

●発掘調査の現地説明会（平成11・12年度）

・平成11年７月31日
　招提中町遺跡　　参加　約300人

・平成12年７月16日
　野々上西遺跡　　参加　約350人

・平成13年３月18日
　加納古墳群・平石古墳群　参加　約180人

●速報展の開催

府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く公開するため、府立泉北考古資料館第１展示室において速報展を６回開催した。

第１回　「野々上西遺跡（藤井寺市）」
　平成12年８月11日～10月15日
　土師器、須恵器（円面硯等）、朝鮮半島系瓦質土器など10点

第２回　「大和川今池遺跡（大阪市・松原市）」
　平成12年９月７日～10月１日
　石鏃、石錐、チャート製石匙、剥片石器、尖頭器、墨書土師器(「野取」など）人面墨書土器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器など64点　((財）大阪府文化財調査研究センターから借用)

第３回　「西大井遺跡（藤井寺市）」
　平成12年10月３日～11月12日
　国府型ナイフ、翼状剥片、翼状剥片石核、横長ナイフ形石器、くさび形石器、剥片など約50点

第４回　「安威遺跡（茨木市）」
　平成12年11月27日～平成13年１月14日
　土師器、須恵器、陶質土器、韓式系土器、瓦質土器、滑石製管玉など18点

第５回　「尾平遺跡（富田林市）」
　平成13年１月16日～２月25日
　弥生土器、石皿、土器棺など11点

第６回　「木の本遺跡（八尾市）」
　平成13年２月25日～４月22日（予定）
　陶質土器、韓式系軟質土器、韓式系瓦質焼成土器、初期須恵器、土師器、製塩土器、土製支脚など32点

●里帰り展の開催

文化庁提唱による「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」に基づいて、東京国立博物館から府内出土考古資料を借用し、府立泉北考古資料館において「里帰り展」を開催した。

第１回　里帰り展
　展示期間：平成11年３月１日～12年２月29日、
　　平成12年３月１日～12年３月31日
　展 示 品：高井田横穴墓（柏原市）出土　須恵器（器台、子持器台、碗、蓋坏）
　　太秦古墳群（寝屋川市）出土　須恵器（広口壺、蓋）土師器（壺、甕）
　　古室（藤井寺市）出土　須恵器（革袋形提瓶）
　　郡川西塚古墳（八尾市）出土　須恵器（坏身）
　　合計　10点

第２回　里帰り展
　展示期間：平成12年10月17日～13年３月25日
　展 示 品：海北塚古墳（茨木市）出土　須恵器

（碗、高坏、広口壺、子持脚付壺）
南高田（堺市）出土　須恵器（坏、碗、高坏）土師器（壺、甕）
田出井町（堺市）出土　土師器（碗、飯蛸壺、壺）
合計　13点

本府より下記の資料を、東京国立博物館に貸し出した。

平成11年度
陶邑窯跡群ＴＫ73号窯跡（堺市）出土須恵器（坏身、樽形碗）
陶邑窯跡群ＴＫ85号窯跡（堺市）出土須恵器（坏蓋、高坏、碗）
陶邑窯跡群ＴＫ87号窯跡（堺市）出土須恵器（甑）
合計　６点

平成12年度
土師ノ里遺跡（藤井寺市）出土埴輪２点
はさみ山古墳（藤井寺市）出土埴輪１点
合計　３点

●府庁別館における考古資料の展示

府庁別館１階及び８階に設置した展示ケースの考古資料の入れ替えを行った。

・平成12年７月15日　まで
（１Ｆ）堺環濠都市遺跡（堺市）　青磁など９点
（８Ｆ）陶邑窯跡群ＴＫ13号窯跡（堺市）須恵器器台・高坏・壺・坏など６点
・平成12年７月16日　以降
（１Ｆ）岸之本南遺跡（富田林市）　土師器高坏・椀・甑、陶質土器高坏・甕、須恵器坏など８点
（８Ｆ）更良岡山遺跡（四條畷市）　円筒埴輪５点、家形埴輪１点

●出土文化財の整理、点検と台帳作成事業

労働省による緊急地域雇用特別基金による委託事業として、本府が保管している出土文化財の点検・整理とコンテナ台帳の作成を行った。なお本事業は平成13年度まで継続する予定である。

・平成11年度
コンテナ点検・台帳作成　57,000箱
（東大阪文化財収蔵庫）
・平成12年度
コンテナ点検・台帳作成　28,500箱
（泉北収蔵庫、北部収蔵庫、東大阪文化財収蔵庫）
台帳データ入力　38,000箱
検索システム作成　１件

なお、コンテナ台帳の記載項目は、１．遺跡名（遺跡略号）　２．調査地区名　３．調査年度　４．資料内容（出土遺構、層位等）　５．資料の材質　６．整理段階　７．備考・その他（コンテナの充填率など）とした。

＜資料数一覧＞

●出土遺物（コンテナ数）（平成13年３月末現在）

・泉北考古資料館内第１収蔵庫 堺市若松台	10,559箱
・泉北収蔵庫 高石市綾園	32,962箱
・大井収蔵庫 藤井寺市西大井	14,482箱
・外環高架下収蔵庫 藤井寺市西古室	7,800箱
・志紀収蔵庫 八尾市志紀町西	1,101箱
・北部収蔵庫 摂津市鳥飼中	2,600箱
・東大阪文化財収蔵庫 東大阪市長田東	80,861箱
・文化財調査事務所 堺市竹城台	6,391箱
合計	156,756箱

●民俗資料

・文化財調査事務所	
谷口家資料	221点
上辻家資料	132点
守田コレクション	約200点
上平家資料	150点
畑野家資料	68点
三宅家資料	
大恩寺資料	
前西家資料	22件

●その他の資料（平成12年12月末現在）

・文化財調査事務所	
図面資料	4,723ケース
写真資料	6,584ケース
台帳	2,765冊（注１）
パネル	626点（注２）
図書	26,253冊

注１　合冊している場合は台帳の種類別に１冊と数える。
注２　全保有点数。なお、『年報３』に掲載した数（平成10年９月現在、253点）は整理・入力済みの点数であり、11・12年度における新規増加分はあわせて60点となる。

平成12年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行出版物

大阪府埋蔵文化財調査報告

2000－１『新堂廃寺』
2000－２『寛弘寺１号墳』
2000－３『池上曽根遺跡Ⅲ』－拠点集落北方の墓域の調査－
2000－４『野々上西遺跡』
2000－５『陶邑・谷山池12号窯』
2000－６『七ノ坪遺跡』
2000－７『金岡西遺跡』
2000－８『宮野遺跡』
2000－９『唐櫃山古墳』

概要報告

『田能遺跡群発掘調査概要・Ⅱ』－農地還元利活用事業「樫田地区」に伴う調査－
『木の本遺跡発掘調査概要・Ⅴ』－一級河川平野川改修工事に伴う調査－
『陶器南遺跡群発掘調査概要・Ⅶ』－府営ほ場整備事業陶器北地区に伴う調査－
『高向遺跡発掘調査概要Ⅱ』－溜池等改修事業丹保池改修工事に伴う埋蔵文化財調査－
『六尾遺跡・六尾南遺跡試掘調査　馬場笹カ遺跡・摩湯北遺跡発掘調査概要Ⅱ』
－農用地総合整備事業六尾・馬場・摩湯団地－

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報　4

大阪府文化財ハンドマップ　大阪府文化財分布図縮刷版①　豊能・三島地域
大阪府文化財ハンドマップ　大阪府文化財分布図縮刷版②　大阪市・中河内・北河内地域
大阪府文化財ハンドマップ　大阪府文化財分布図縮刷版③　南河内・泉州地域

資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

貸出・展示先	貸出品	出土遺物
能勢町歴史資料館	弥生土器９点・土師器７点・須恵器５点	大里遺跡
	石包丁４点・石斧３点・石鏃６点・他２点	
	須恵器１点	上椿遺跡
	円面硯など４点	尾道遺跡
	黒色土器２点・土師器小皿３点	九ノ坪遺跡
	瓦器碗７点・土師器皿４点・須恵器破片等	余野城遺跡
藤井寺市立図書館展示室	小型修羅	三ツ塚古墳
太子町立竹ノ内街道歴史資料館	須恵器等一括資料	一須賀古墳群Ｑ１支群
	銀製帯金具（複製）	伽山古墓
国立歴史民俗博物館	石包丁３点	池上曽根遺跡
大阪府立ドーンセンター	陶磁器・金属器等	大坂城跡
吹田市立博物館	軒瓦・緑釉瓦・窯道具など	吉志部瓦窯
吉志部神社	複弁八葉蓮華文軒丸他瓦３点・とちん２点	吉志部瓦窯
大阪府立玉川高等学校	弥生土器５点	稲葉遺跡
大阪府立大手前高等学校	陶磁器・瓦・金属器等14点	大坂城跡
東京国立博物館	円筒埴輪２点・蓋形埴輪１点	はざみ山古墳・土師の里遺跡
帝塚山学院大学	須恵器32点	陶邑窯跡群
豊能町立郷土資料館	砥石１点・瓦器椀７点・土器皿４点・須恵器３点	余野城遺跡
	瓦器20点	
和泉市いずみの国歴史館	弥生土器10点・蛸壺１点	府中遺跡
	軒丸瓦５点・軒平瓦５点	坂本寺遺跡
	尖頭器２点・勾玉３点・紡錘車１点	大園遺跡
	弥生土器15点・木製品24点・石錘２点	池上曽根遺跡
	石包丁２点・石斧11点・石槍５点・投弾３点	
	ひすい勾玉１点・管玉５点・ガラス片３点	
	イノシシ下顎骨１点・鹿角１点・骨製品７点	
	銅鏃２点・鏡１点・文字瓦１点	

短期貸出・掲載許可資料

依　頼　者	貸出・掲載	写真・遺物	種類	遺跡名	内容
樟陰女子短期大学	貸出・掲載	写真	カラープリント１	大坂城跡	発掘調査状況
大韓民国光州文化放送株式会社	放映	撮影		泉北考古資料館及び展示品	泉北考古資料館及び展示品
兵庫県小野市市史編纂係	貸出・掲載	写真	モノクロプリント１	津堂城山古墳	長持形石棺
青森県田舎館村教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	志紀遺跡	水田の発掘調査状況
（株）学生社	転載	図面		瓜生堂遺跡	方形周溝墓図面１
				東山遺跡	遺構配置図面１
柏原市立歴史資料館	貸出・掲載	写真	モノクロプリント10	玉手山東横穴群	発掘調査状況
（有）住友和子編集室	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	陶邑窯跡群	須恵器の集合写真
（株）学生社	転載	図面		国府遺跡	角錘状石器図面１
柏原市立歴史資料館	貸出・掲載	写真	モノクロプリント11	玉手山東横穴群	出土遺物
東京国立博物館	貸出・掲載	写真	モノクロプリント６	大坂城跡	出土朝鮮陶磁器
スタンドファーム大阪事務局	貸出	遺物	金属製品４	田井中遺跡	機関銃１、薬莢３
柏原市立歴史資料館	貸出	遺物	土器20	玉手山東横穴群	須恵器７、土師器12、黒色土器１
			石製品１	玉手山東横穴群	紡錘車１
			金属製品20	玉手山東横穴群	耳環17、鈴１、刀子１、銭１
柏原市教育委員会	貸出	遺物	埴輪４コンテナ	玉手山古墳	埴輪多数
			土器１	玉手山古墳	土師器１
京都文化博物館	貸出	遺物	木器２	大坂城跡	台鉋１、ものさし１
			金属製品１	大阪城跡	木の葉型鋸１
瀧安寺	貸出・掲載	写真	カラーポジ５	箕面山経塚	出土埋納品
三重県松阪市教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ・ネガ１	鞍塚古墳	船形埴輪
府立弥生文化博物館	貸出・掲載	遺物	土器２	讃良郡条里遺跡	縄文土器
			土器82	雁屋遺跡	弥生土器
			金属製品６	雁屋遺跡	銅鏃
			木製品１	雁屋遺跡	鳥形木製品
			土器17	八雲遺跡	弥生土器
			石器４	八雲遺跡	蛤刃石斧１、叩き石１、砥石２
			玉関連169	八雲遺跡	玉、玉造り関連
			土器５	高柳遺跡	弥生土器
毎日新聞社	貸出・掲載	写真	モノクロプリント１	大坂城跡	天正枡
個人	貸出・使用	写真	スライド28	総持寺遺跡	発掘調査状況
明治大学	撮影・使用	写真	スライド２	総持寺遺跡	家形埴輪
藤井寺教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロプリント１	三ッ塚古墳	修羅の出土状況
和泉市教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	池上曽根遺跡	ひすいの勾玉
韓国国立慶州博物館	貸出・掲載	遺物	瓦１	秦廃寺	軒丸瓦１
野洲町立歴史民族資料館	掲載	写真	カラーポジ	寛弘寺	小銅鐸２点
滋賀県野洲町立歴史民族資料館	貸出・掲載	写真	カラーポジ２	寛弘寺遺跡	小銅鐸１、出土状況１
		写真	モノクロプリント４	伝羽曳山	銅鐸前から後から
府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	遺物	埴輪３	応神陵古墳	円筒埴輪
			埴輪２	大鳥塚古墳	円筒埴輪
			埴輪２	仁賢陵古墳	円筒埴輪
			埴輪１	津堂城山古墳	円筒埴輪
雄山閣出版株式会社	貸出・掲載	写真	モノクロプリント１	蕃上山古墳	武人埴輪
樟陰女子短期大学	貸出	写真	パネル８	田辺廃寺他	発掘調査状況、出土遺物他

個人	貸出・掲載	写真	航空写真３	難波宮跡	発掘調査時の航空写真
韓国国立広州博物館	転載	写真		陶邑窯跡群	須恵器３
	撮影・掲載	写真	カラー４	新堂廃寺	軒丸・軒平瓦４
（有）プランナッツ	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	三ッ塚古墳	修羅の出土状況
府立弥生文化博物館	貸出・掲載	遺物	埴輪１	野々井古墳	弾琴人物埴輪
		遺物	金属製品１	玉手山東横穴	金銅製鈴
		遺物	須恵器１	檜尾塚原４号墳	笛
		写真	カラーポジ１	野々井古墳	弾琴人物埴輪
		写真	カラーポジ１	玉手山東横穴	金銅製鈴
和泉市教育委員会	撮影・掲載	写真	カラー１	池上曽根遺跡	ひすいの勾玉
山口県下関市立考古博物館	貸出・掲載	遺物	土器１	総持寺	「調」刻字の須恵器
		写真	カラーポジ１	総持寺	「調」刻字の須恵器
		遺物	土器１	野々井25号墳	刻字の須恵器
		写真	カラーポジ２	野々井25号墳	刻字の須恵器
個人	転載	写真		萱振１号墳	埴輪写真１
兵庫県神戸市教育委員会	貸出	遺物	玉製品	池上曽根遺跡	ひすいの勾玉
	撮影・掲載	写真	カラーポジ１	池上曽根遺跡	ひすいの勾玉
		写真	カラーポジ１	寛弘寺第75号墳	水晶製切子玉
道明寺東小学校	掲載	写真	モノクロプリント１	三ッ塚古墳	修羅の出土状況
能勢町教育委員会	掲載	写真	モノクロプリント２	野間中Ａ３号墳	横穴式石室
東京都足立区立郷土博物館	貸出	遺物	土器５	陶邑窯跡群ＴＫ73号	須恵器甕３、碗１、坏身１
			土器１	陶邑窯跡群ＴＫ85号	須恵器坏蓋１
四條畷市教育委員会	貸出・掲載	遺物	土器１	雁屋遺跡	絵画のある弥生土器
富田林教育委員会	貸出	遺物	石器１	甲田南遺跡	打製石剣
枚方市教育委員会	貸出	写真	パネル１	招提中町遺跡	遺跡発掘調査状況パネル
			スライド26	招提中町遺跡	遺跡発掘調査状況スライド
池田市教育委員会	転載	写真		宮之前遺跡	報告書掲載写真・図版２
				久安寺楼門	写真図版３
（株）プライム涌光	転載	写真		仁徳陵古墳	航空写真１
大阪府広報室	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	三ツ塚古墳	修羅の出土状況
古代瓦研究会	貸出	遺物	瓦20	新堂廃寺	瓦
個人	転載	写真		応神陵古墳	航空写真１
				応神陵古墳	出土埴輪１
個人	掲載	写真	モノクロプリント１	陶器南遺跡	航空写真
			モノクロプリント４	陶器千塚１号墳	調査着手前の状況
			モノクロプリント１	陶器南遺跡	遺跡発掘調査状況
			モノクロプリント７	陶器南遺跡	出土遺物
大阪府土木部（狭山池博物館）	貸出・掲載	写真	カラースライド１	古市大溝	遺跡発掘調査状況
			カラースライド１	河合大溝	遺跡発掘調査状況
			カラースライド１	亀井遺跡	遺跡発掘調査状況
			カラースライド１	平尾遺跡	遺跡発掘調査状況
			カラースライド１	池尻城跡	遺跡発掘調査状況
大阪府土木部（狭山池博物館）	貸出	遺物	金属製品１	池尻城跡	冑金
			木器１	大和川今池遺跡	鋤
大阪府文化財調査研究センター	貸出・掲載	遺物	金属製品12	大坂城跡	鉄砲玉、のこぎり、錐、包丁、毛抜き、はさみ
			土製品６	大坂城跡	犬形土製品
			木器４	大坂城跡	しゃもじ、櫛、羽子板
（株）学習研究社	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	陶邑窯跡群	須恵器集合写真
個人	転載	図版		黒姫山古墳	出土鉄鏃図面１
				応神陵古墳	古墳、および周辺古墳復原図面１
				土師の里遺跡	出土鉄鏃図面１
鹿児島県指宿市考古博物館	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	はさみ山遺跡	旧石器時代の住居跡
大阪府文化財調査研究センター	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	大坂城跡	石垣検出状況
朝日新聞社	貸出・掲載	写真	モノクロ１	田井中遺跡	石鏃、刃器
			モノクロ１	陶邑窯跡群	須恵器大甕
府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	遺物	土製品１	大園遺跡	磚仏
		写真	カラーポジ１	お亀石古墳	調査状況
岐阜県県史編纂室	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	はさみ山遺跡	旧石器時代の住居跡
府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	遺物	金属製品30	大坂城跡	分銅、鍔、鞘尻金具、鉄砲玉、鏃、鎧小ざね、鋸、他
			木製品45	大坂城跡	升、しゃもじ、ハケ、まごの手、舟形、木簡、羽子板、他
			瓦３	大坂城跡	金箔瓦２、文字瓦１
			石製品４	大坂城跡	砥石２、碁石２
			土製品４	大坂城跡	犬形土製品
			金属製品１	田井中遺跡	機関銃
（財）国際教育情報センター	掲載許可	写真		阿武山古墳	夾紵棺の写真
京都府園部市教育委員会	貸出・掲載	遺物	土器１	吉野遺跡	丹波焼銭甕
			金属製品776	吉野遺跡	出土銭（１緡97を８緡）
岡山県牛窓町史編纂委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ１	はさみ山遺跡	旧石器時代の住居跡
吹田市立博物館	貸出・掲載	写真	カラー１	吉志部瓦窯跡	瓦窯跡
大阪府文化財調査研究センター	貸出・実測	遺物	石器34	八尾南遺跡	第６地点旧石器接合資料
栃木県小山市立博物館	貸出・掲載	写真	カラーポジ１	寛弘寺遺跡	小銅鐸
個人	貸出・掲載	写真	モノクロプリント４	岡遺跡	調査状況
			モノクロプリント１	志紀遺跡	水田遺構全景
藤井寺教育委員会	貸出・掲載	写真	カラー１	三ツ塚古墳	修羅の出土状況
元興寺文化財研究所	掲載	写真	カラー１	三ツ塚古墳	修羅
個人	撮影・掲載	写真	モノクロ４	萱振遺跡	円筒埴輪
吉川弘文館	転載	陵墓図		仁徳陵古墳他	陵墓図２
講談社	貸出・掲載	写真	モノクロプリント１	古市大溝	調査状況

講談社	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	陶邑窯跡群	初期須恵器の集合写真
泉大津市教育委員会	貸出	遺物	炭化米1	池上曽根遺跡	炭化米
藤井寺教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロプリント2	津堂城山古墳	石棺出土状況
			カラーポジ2	津堂城山古墳	埴輪出土状況、埴輪
東京書籍株式会社	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	萱振1号墳	鞆形埴輪
			カラーポジ1	陶邑窯跡群	TK73号窯出土碗
(財)堺都市政策研究所	転載	街道図		紀州街道	紀州街道図面1
大阪府土木部(狭山池博物館)	貸出・掲載	写真	モノクロプリント4	狭山池	昔の狭山池写真
(株)学習研究社	貸出・掲載	写真	モノクロプリント1	池上曽根遺跡	石斧
			モノクロプリント1	池上曽根遺跡	鳥形木製品
府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	遺物	土器4	鳥坂寺	三彩2、磚仏2
			金属製品7	鳥坂寺	金銅製飾金具
			瓦1	お亀石古墳	平瓦
			瓦製品1	原山4号古墓	しび
		写真	カラーポジ5	鳥坂寺	三彩、磚仏、金銅製飾金具

資料閲覧

所属	資料内容	遺跡
東京都足立区立郷土博物館	須恵器	陶邑窯跡群
柏原市立歴史資料館	須恵器	玉手山東横穴群
柏原市教育委員会	埴輪等	玉手山古墳群
(財)竹中大工道具館	鉄斧	西ノ辻遺跡
	墨壺・錐	大坂城跡
奈良大学大学院	旧石器	西大井遺跡・南花田遺跡
大阪大学大学院	石器	東郷地区遺跡群・亀井・東奈良・新庄・招提中町・淡輪遺跡
京都文化博物館	モノサシ・木の葉型鋸・台鉋	大坂城跡
富山大学大学院	土師器	崇禅寺遺跡・八尾南遺跡
樟蔭女子短期大学	写真パネル	大坂城跡
藤井寺市教育委員会	縄文土器	国府遺跡
帝塚山学院大学	須恵器	陶邑窯跡群
帝塚山学園大学	須恵器	陶邑窯跡群
立命館大学	弥生土器	池上曽根遺跡
奈良国立文化財研究所	刀・鉄鏃	寛弘寺75号墳
奈良大学大学院	旧石器	八尾南遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	木器、金属器	大坂城跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	瓦	秦廃寺
(財)大阪府文化財調査研究センター	土器・石器	招提中町遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	木器、金属器	大坂城跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	玉	池島遺跡
奈良大学大学院	旧石器	八尾南遺跡
(財)群馬県埋文調査事業団	須恵器	陶邑窯跡群
岸和田市教育委員会	埴輪	大園遺跡
京都府大山崎町教育委員会	瓦	百済寺
大阪大学	円筒埴輪	更良岡山遺跡・総持寺古墳群・御曹司塚古墳・具足塚古墳
大阪大学	円筒埴輪	青山2号墳・宮の南塚古墳・大鳥塚古墳・鞍塚古墳・ 継体C号陪塚・西小山・西陵・応神陵
早稲田大学	冑	寛弘寺75号墳
府立近つ飛鳥博物館	磚仏	大園遺跡
朝日新聞社大阪本社	須恵器甕	陶邑窯跡群
奈良大学大学院	旧石器	八尾南遺跡
柏原市・交野市教育委員会	鋳造関連	余部遺跡
奈良大学大学院	旧石器	八尾南遺跡・大園遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	機関銃・銃弾	田井中遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	軒平瓦	東郷遺跡
岐阜県糸貫町教育委員会	須恵器	陶邑窯跡群
東京都市立市川考古博物館	軒丸・軒平瓦	河内国分寺
堺市埋蔵文化財センター	軒平瓦	河内国分寺
奈良大学大学院	旧石器	八尾南遺跡
奈良大学大学院	旧石器	国府遺跡・はさみ山遺跡
滋賀県文化財保護協会他	須恵器	陶邑窯跡群
立命館大学大学院	円筒埴輪	萱振遺跡・土師の里遺跡
藤井寺市教育委員会	陶棺	土師の里遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	土師器・須恵器	安威遺跡
(財)大阪府文化財調査研究センター	羽釜他	高柳遺跡
韓国東義大学校博物館	須恵器	陶邑窯跡群
(財)山形県埋蔵文化財センター	須恵器	陶邑窯跡群
京都府大山崎町教育委員会	軒瓦	応神陵古墳外堤
京都府大山崎町教育委員会	軒瓦	応神陵古墳外堤
(財)大阪府文化財調査研究センター	土器	志紀遺跡
東大阪市教育委員会	土器・埴輪・瓦器	瓜生堂遺跡
滋賀県文化財保護協会他	須恵器	陶邑窯跡群
藤井寺市教育委員会	埴輪	青山遺跡

平成12年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

課長
参事

- 保存管理グループ
- 指定文化財グループ

文化財調査事務所

文化財保護課分室

- 調査管理グループ
  - 調査管理補佐　堀江門也
  - 資料総括主査　大野　薫
    - 森井貞雄　主査　泉北資料館協力　事務所維持管理等
    - 兼　泰通　主査　積算及び竣工等
    - 橋本高明　技師　年報・調査報告書　写真・保存処理等
    - 森屋直樹　技師　(財)文調センター指導・調整・業務量調査
    - 山田隆一　技師　遺物整理　資料管理・貸出等
    - 小浜　成　技師　遺物整理　非常勤職員賃金等
- 調査第一グループ
  - 調査第一補佐　中井貞夫
  - 調査第一総括主査　岩崎二郎
    - 泉本知秀　主査　発掘調査・調整・指導（豊能 三島 北河内）
    - 小林義孝　主査　発掘調査・調整・指導（中河内）
    - 辻本　武　技師　発掘調査
    - 宮崎泰史　技師　発掘調査
    - 奥　和之　技師　発掘調査
    - 阿部幸一　技師　発掘調査
    - 山上　弘　技師　発掘調査
    - 横田　明　技師　発掘調査
    - 藤田道子　技師　発掘調査
- 調査第二グループ
  - 調査第二補佐　高島　徹
  - 調査第二総括主査　広瀬雅信
    - 佐久間貴士　主査　発掘調査・調整・指導（南河内）
    - 藤沢眞依　主査　発掘調査・調整・指導（泉州）
    - 今村道雄　技師　発掘調査
    - 亀島重則　技師　発掘調査
    - 枡本　哲　技師　発掘調査
    - 大楽康宏　技師　発掘調査
    - 竹原伸次　技師　発掘調査
    - 井西貴子　技師　発掘調査
    - 西川寿勝　技師　発掘調査

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報５
発行日　2002年３月29日
発　行　大阪府教育委員会
〒540－8571
大阪市中央区大手前２丁目
☎06－6941－0351
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒590－0105
堺市竹城台３丁21－４
☎072－291－7401
印　刷　中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南２－６－８